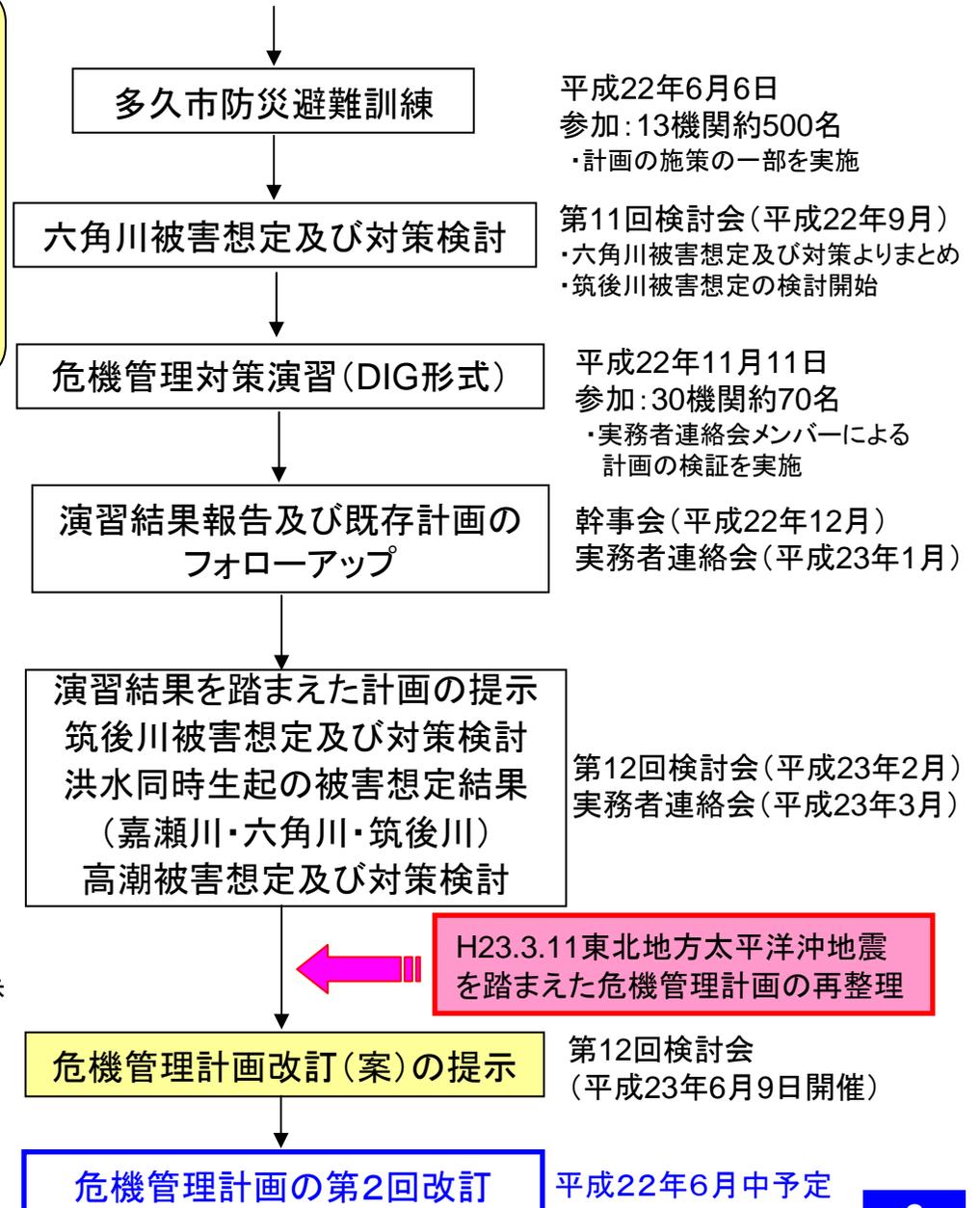
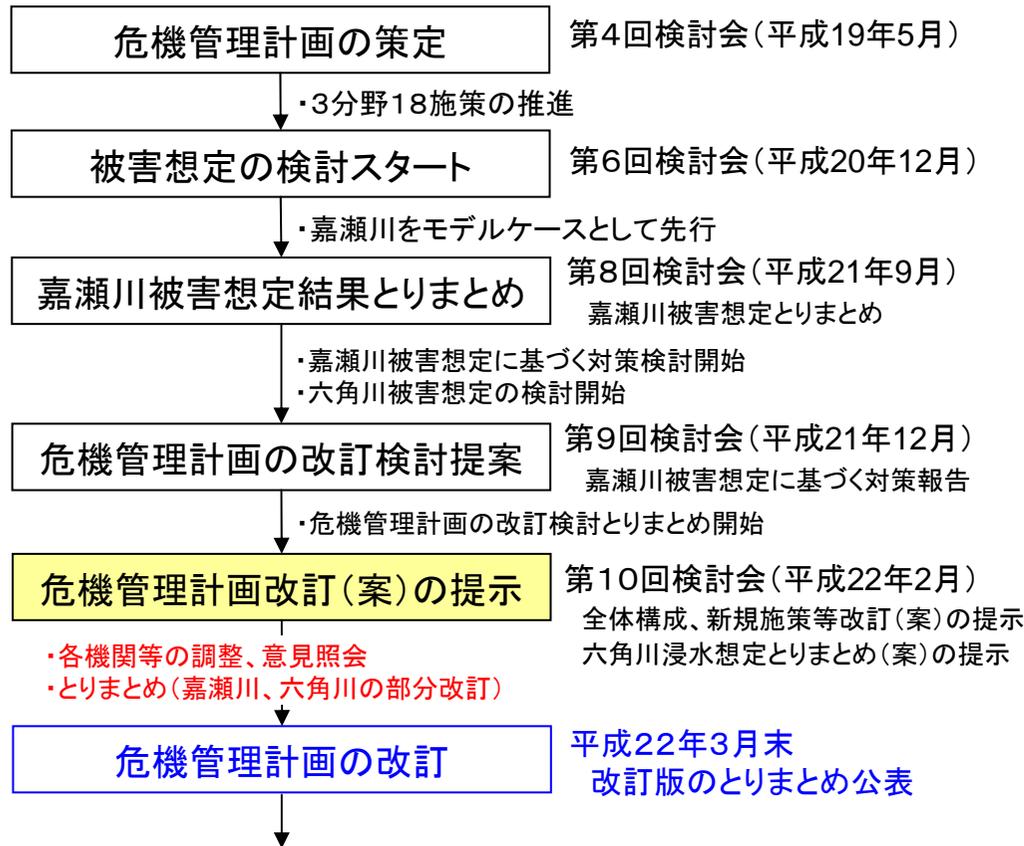


1. 佐賀平野浸水危機管理計画 (第2回改訂)(案)について

「佐賀平野大規模浸水危機管理計画」の改訂の背景

- ▶ 防災訓練や机上演習により既計画の検証の結果、新たな課題を抽出
- ▶ H23.3.11東北地方太平洋沖地震による大震災の教訓を踏まえて、危機管理対策の重要性を再認識
- ▶ “いざという時”的確な対応がとれるよう、更なる連携強化が必要



現行の危機管理計画（平成22年3月）における取り組み施策

過去の災害等から課題を抽出し、“**まず出来ることを行う**”との考えのもと、国・県・市町・民間の各機関が連携して取り組む危機管理計画を策定 **<3分野27施策で構成。各機関で施策を推進中>**

1. 情報収集・伝達

番号	項目	参加連携機関			
		国	県	市町	民間
1	ラジオによる情報伝達	○	○	○	○
2	防災情報総合掲示板	○	○	○	○
3	ヘリテレによる画像の生中継	○	○	○	
4	CCTV画像による浸水状況把握	○	○	○	
5	民間からの情報提供	○	○		○
6	リエゾン制度	○	○	○	
7	高速道路における道路情報等の提供	○	○		○
8	河川・防災情報表示板の設置	○	○	○	○
9	地上デジタルテレビ放送を活用した河川防災情報提供	○			○
10	ケーブルテレビ放送を活用した河川防災情報提供	○		○	○
11	気候変化のモニタリング	○			

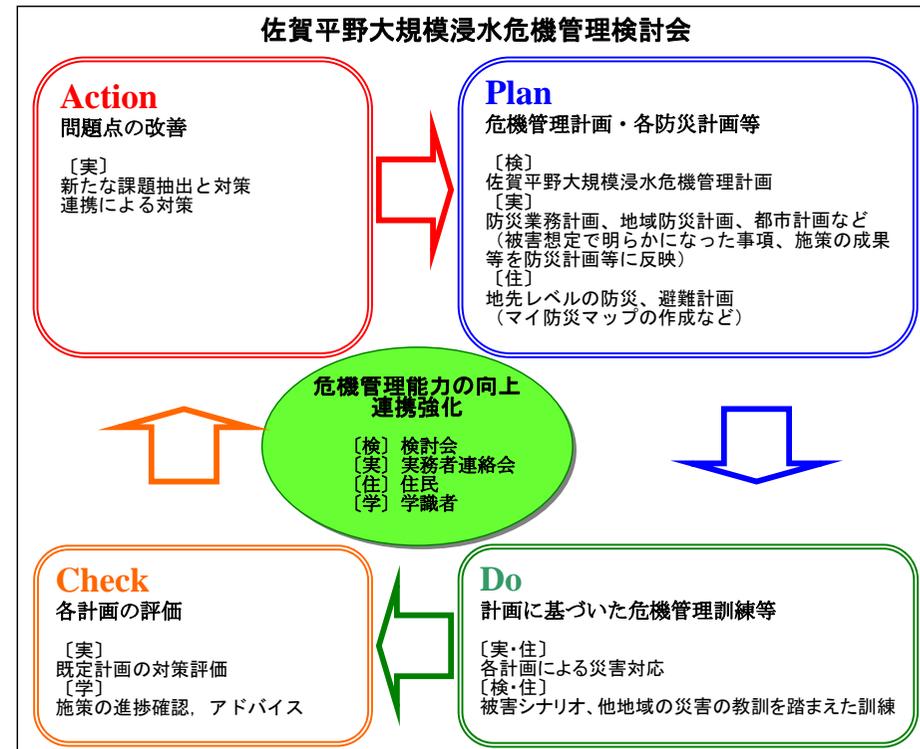
3. 連携強化

番号	項目	参加連携機関			
		国	県	市町	民間
1	避難所整備ガイドライン		○	○	
2	避難所の位置及び構造の評価	○	○	○	
3	防災まちづくり	○	○	○	
4	実務者連絡会の設置	○	○	○	○
5	マスコミとの勉強会の実施	○	○	○	○
6	避難行動計画の策定支援	○		○	
7	避難勧告・指示判断基準の策定支援	○	○		
8	危機管理対策訓練の実施	○	○	○	○
9	ボランティアと連携した救助体制の構築	○			○
10	避難所運営マニュアルの作成				○
11	災害時要援護者の避難支援			○	

2. 広域応援・緊急輸送路ネットワーク

番号	項目	参加連携機関			
		国	県	市町	民間
1	地域高規格道路等と河川堤防の接続	○	○		
2	一般道路の路面高確認	○	○	○	
3	河川管理用通路の確保	○	○		
4	防災ステーション等の整備	○	○	○	
5	SA、PAでの接続ポイント		○	○	○

フォローアップ計画



「佐賀平野大規模浸水危機管理計画」の改訂（案）

4. 改訂版のとりまとめ方針（案）

- ①洪水の被害像を時系列的に、具体的な被害想定により判り易く表現（六角川、筑後川、高潮）
- ②住民の水害に対する意識の高揚、防災機関が水害時の状況下で復旧、救助活動等で“どう行動しなければならないか”を示すため、各機関で考えられる洪水の被害想定シナリオに記載
- ③各施策の内容の充実
 - ・H22.3.11に発生した東北地方太平洋沖地震の教訓を踏まえて危機管理対策を再整理
 - ・各施策の担当者を明確にし、進捗管理がしやすいようにした
 - ・現時点では十分な対応が出来ない事項についても、今後の課題として対応方針等を記載
- ④検討会及び実務者連絡会参加以外の関連機関にも被害想定を積極的に情報提供
- ⑤計画の検証するために訓練を位置づけ、PDCAサイクルに基づき施策の内容補足、新規施策の抽出など継続的に改善

5. 改訂版の構成（案）

はじめに

第1章【被害想定編】

1. 1 被害想定
1. 2 気候変動
- 【被害想定編（洪水編）】※1
1. 3 嘉瀬川流域の被害想定
1. 4 六角川流域の被害想定
1. 5 筑後川流域の被害想定
- 【被害想定編（高潮編）】※1
1. 6 高潮の被害想定

新たに追加

※1 被害想定編を洪水編と高潮編と分割

第2章【対策編】

2. 1 各機関の取り組む施策
2. 2 施策の実施体制 ※2
2. 3 フォローアップ計画
2. 3 今後の方針 →
2. 4 今後の検討課題

新たに追加

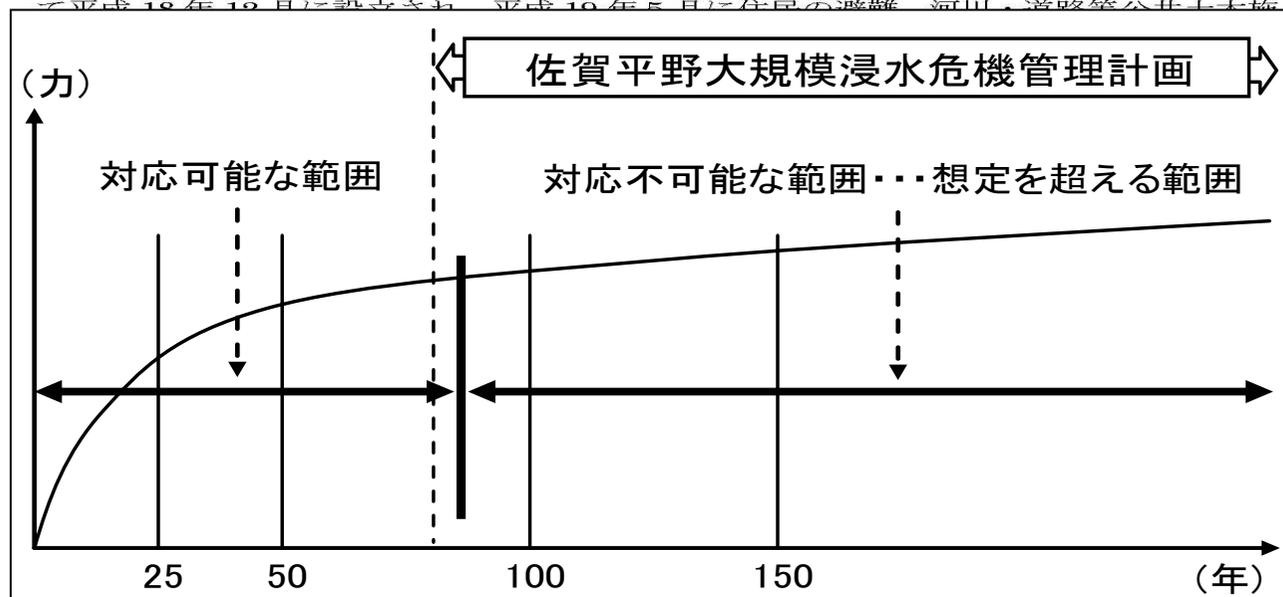
※2 施策表の変更及び内容の更新

はじめに

広大な低平地からなる佐賀平野は低平地で海拔が低く、最大約6mの干満差をもつ有明海に面していることに加えて比較的高い位置に河川が流下している(天井川)ことから洪水や高潮によるはん濫が生じると広域のかつ長時間にわたる浸水が続く可能性がある。これまで計画的な堤防や排水ポンプ等の治水対策の進捗により治水安全度は向上、及びライフライン整備も進捗してきているが、平成21年7月中国・九州北部豪雨では佐賀平野で【床上浸水77戸、床下浸水985戸】の被害が発生しており、既往最高の出水実績である六角川が平成2年7月、嘉瀬川及び筑後川が昭和28年6月でそれぞれ計画規模を定めているが、今後気候変動等異常気象により豪雨や台風の強度増大、海面水位の上昇が予想されており、計画規模を超える自然の猛威に対して全てのハード対策を実施することは困難である<図1,2,3,写真1,2,3>。また、水防団(消防団)員の減少や高齢化、さらに地域コミュニティの変化など地域の防災力は低下してきている。

以上の気候変動、社会構造の変化等を踏まえ、これまでのはん濫等を発生させない対策とあわせて、はん濫が発生した場合でも人命を守る対策を一層強化していく必要がある。

このような中で、河川等施設整備目標(嘉瀬川及び六角川堤防は100年に1度程度起きる災害から守る、筑後川堤防は150年に1度程度起きる災害から守るなど)までは可能な限りハード整備で対応し、ハード整備では対応不可能な想定を超える規模で起こる災害については、住民避難を支援する防災マップづくりや防災訓練を実施するなどのソフト対策で対応するといった組み合わせにより危機管理対策を考えることが重要であり<図4>、佐賀平野大規模浸水危機管理対策検討会は、ハード整備では対応不可能な規模で起こる大規模浸水時の人命・財産等をいかに守るかを考えることを目的として平成19年12月に設立され、平成19年5月に住民の避難、河川、道路等公共土木施設

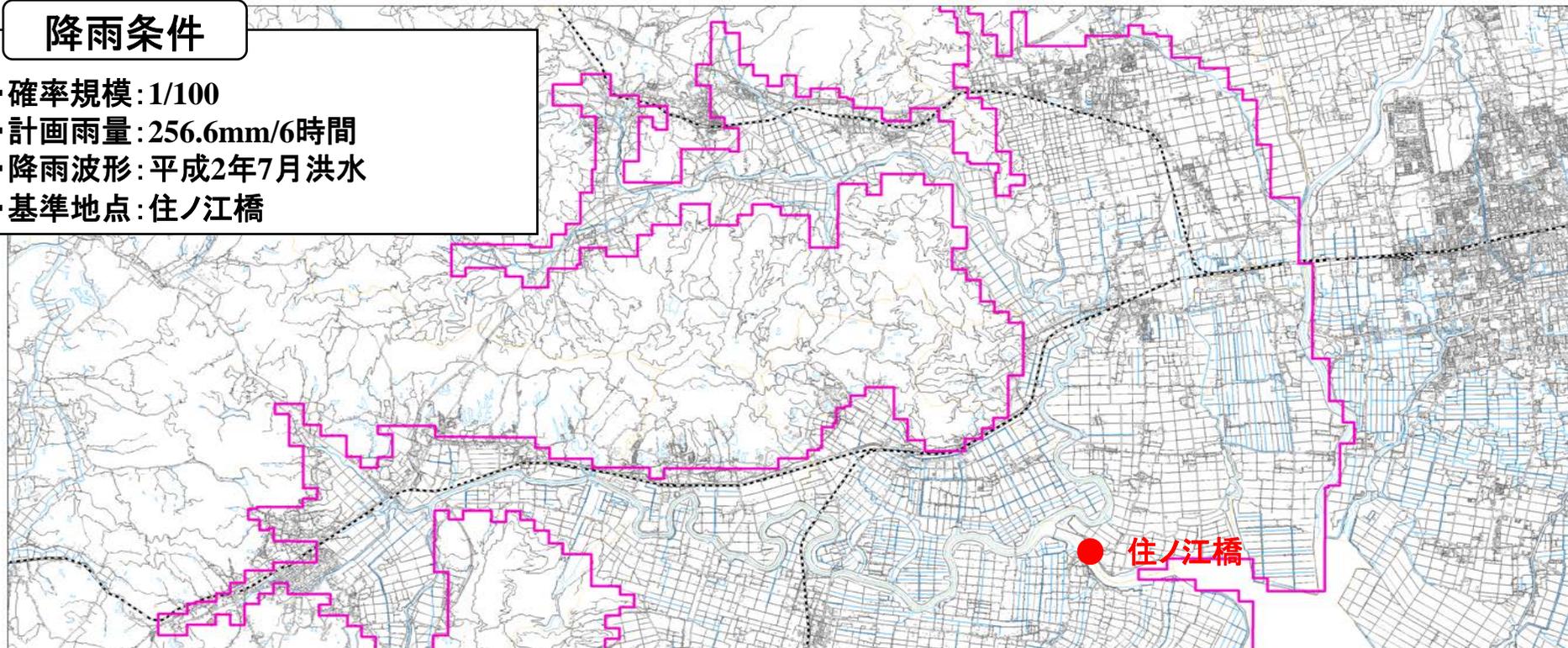


被害想定編(洪水編)

1.4.1 六角川流域の洪水の想定

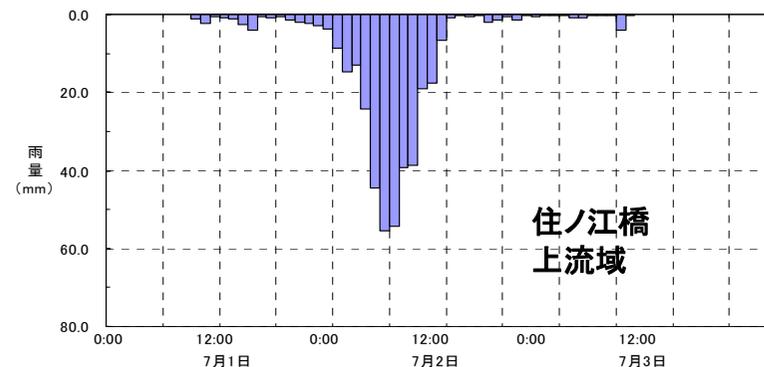
降雨条件

- ・確率規模: 1/100
- ・計画雨量: 256.6mm/6時間
- ・降雨波形: 平成2年7月洪水
- ・基準地点: 住ノ江橋

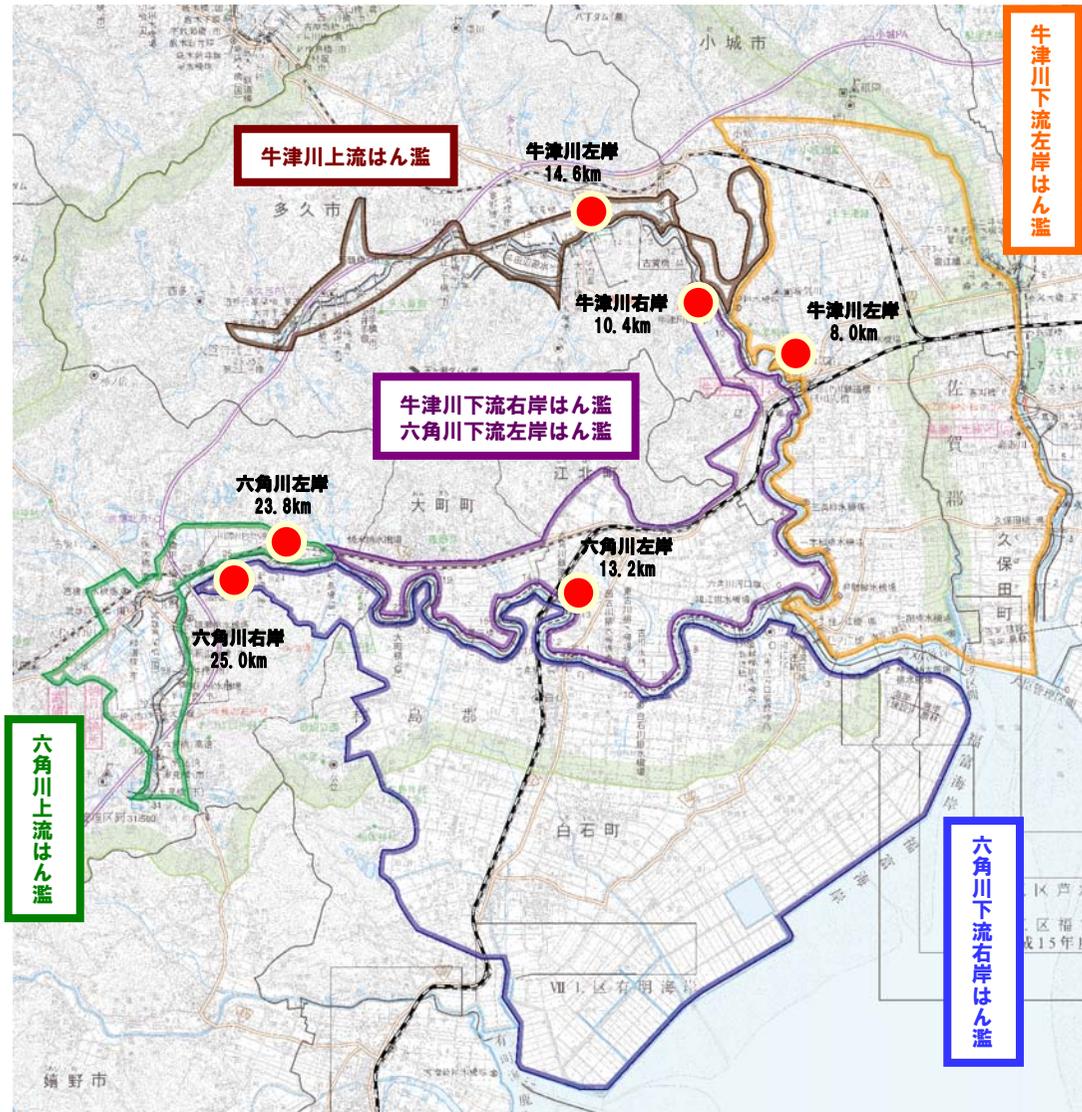


降雨量の設定について

六角川流域内においては、流域分割毎の流域平均雨量を設定
六角川流域外の平地部の降雨量は、隣接する六角川流域内内水域
(平地部)の流域平均雨量で設定



1.4.2 六角川流域の浸水想定の方



六角川流域を類似のはん濫形態を持つ以下の6つに分類し、それぞれについて被害を想定した。

浸水想定の種類区分

- ①六角川上流はん濫
 - ②六角川下流右岸はん濫
 - ③六角川下流左岸はん濫
 - ④牛津川上流はん濫
 - ⑤牛津川下流右岸はん濫
 - ⑥牛津川下流左岸はん濫
- (注：③と⑤は重複)

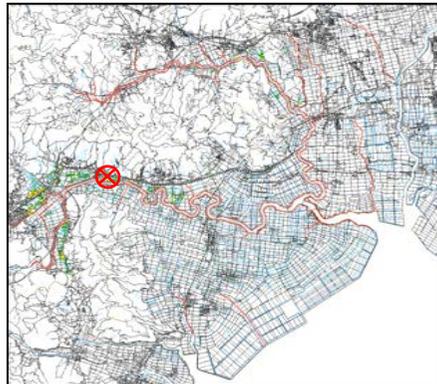
想定決壊箇所について

- ・ここで挙げた想定堤防決壊箇所は、特に他の場所と比較して決壊の危険性が高いことを示すものではない。
- ・想定決壊箇所は、はん濫開始流量が小さい箇所、決壊はん濫開始水位と決壊敷高の比高が大きい箇所、重要水防箇所などから候補地点を複数箇所設定した。候補地点の中から、各類型区分の区間毎にはん濫流量が最大となる箇所を想定堤防決壊箇所として選定した。

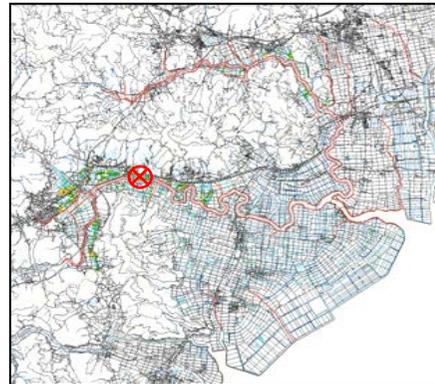
1.4.3洪水はん濫の状況

(①六角川上流はん濫 地点:六角川左岸23.8km)

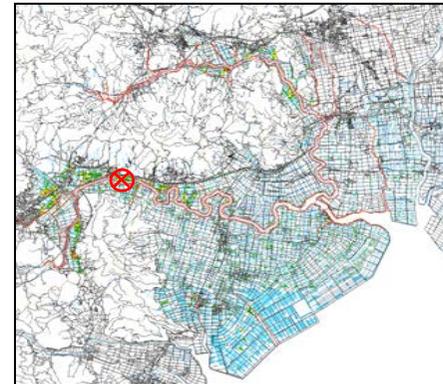
<決壊直前までの浸水状況>



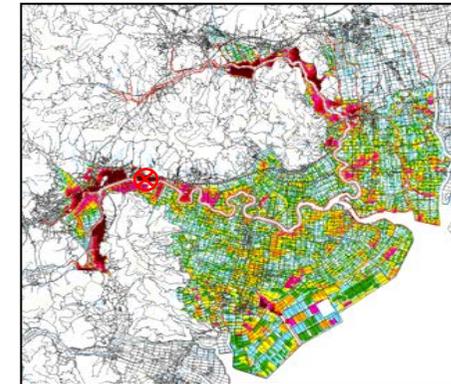
降雨開始12時間後



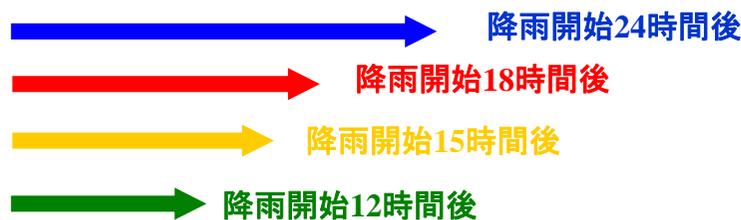
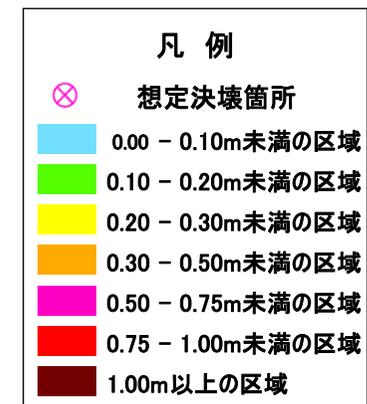
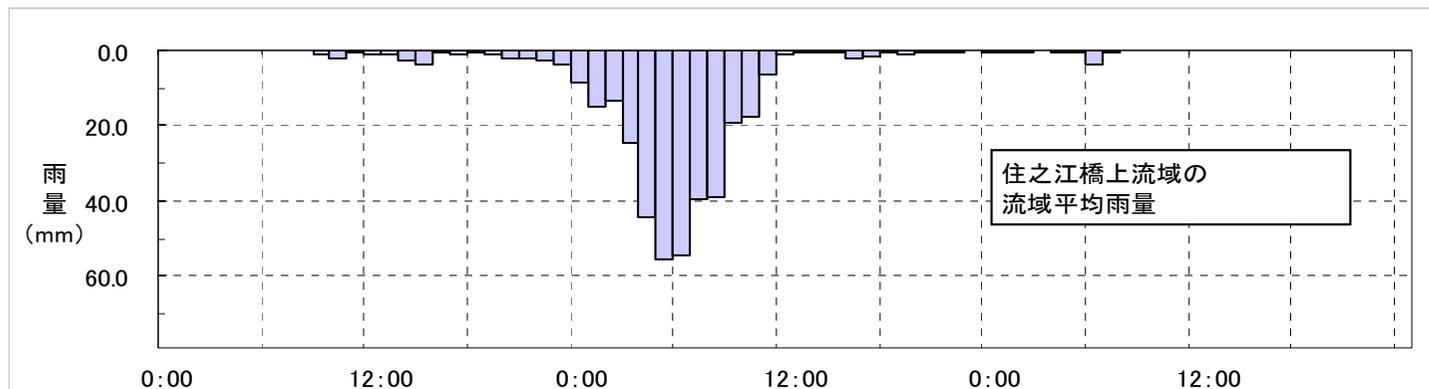
降雨開始15時間後



降雨開始18時間後

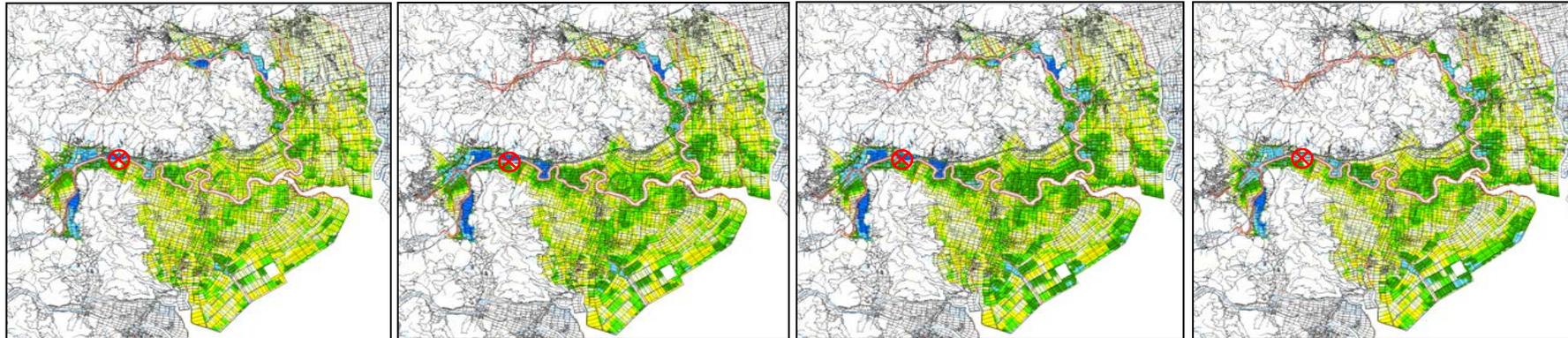


降雨開始24時間後
(決壊直前)



1.4.3洪水はん濫の状況

(①六角川上流はん濫 地点:六角川左岸23.8km)
＜決壊後から概ね浸水解消までの浸水状況＞

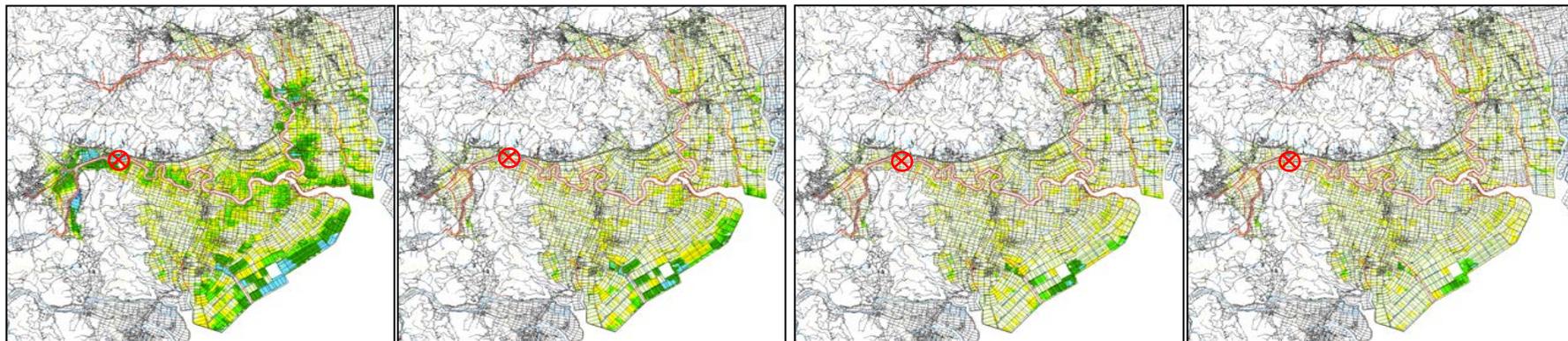


1時間後

3時間後

6時間後

12時間後

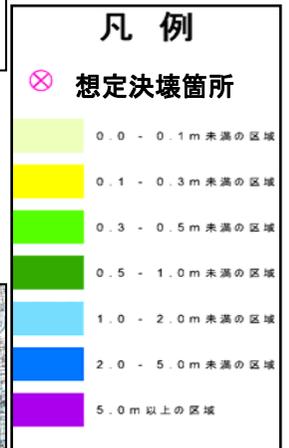


24時間後

48時間後

72時間後

120時間後



1.4.4(1) 六角川の被害想定シナリオ

六角川 ①六角川上流はん濫 (決壊地点: 右岸23.8km)

浸水想定凡例

- 0.0~0.1m未満の区域
- 0.1~0.3m未満の区域
- 0.3~0.5m未満の区域
- 0.5~1.0m未満の区域
- 1.0~2.0m未満の区域
- 2.0~5.0m未満の区域
- 5.0m以上の区域

- 想定決壊箇所
- 緊急輸送道路(通行可)
- 緊急輸送道路(冠水が予想される区間)
- 当該ブロック界

【当該ブロックの特性】

- 【避難所】すべての避難所が浸水で使用できない状況が存在するなど、避難所の多くが浸水で利用できなくなる恐れがある。また、想定決壊付近の避難所では、大気汚染物質を受け、周辺等の被害の恐れがある。
- 【電気】床上浸水が多く、停電被害が多く発生する恐れがある。
- 【下水道】高層建物では、地下機械室の浸水や受水ポンプ故障により断水する恐れがある。
- 【廃棄物】床上浸水が多く、大量の廃棄物が発生する恐れがある。
- 【乗用車】乗用車はクワアッス、老人ホーム、特別養護老人施設において浸水する恐れがある。
- 【LPガス】LPガス配管の浸水により供給設備・消費設備の水道により使用不能となる恐れがある。
- 【道路】緊急輸送道路が六角川流域を縦横に走り、部分的ではあるが広範囲で冠水が予想される。また、はん濫水が引いた後も、浸水によって放置された車両などの影響で渋滞が発生し、道路を利用した活動に支障をきたす恐れがある。
- 【死者】約33人(避難率0%の場合)
- 【孤立者数】約1,300人(避難率10%)
- 【通報】浸水が2m以上となれば、交換所の浸水の恐れがある。通信サービスの提供に影響が与えられる恐れがある。
- 【家屋流失】決壊地点から約100mの範囲で居住不可能な家屋被害が出現する。

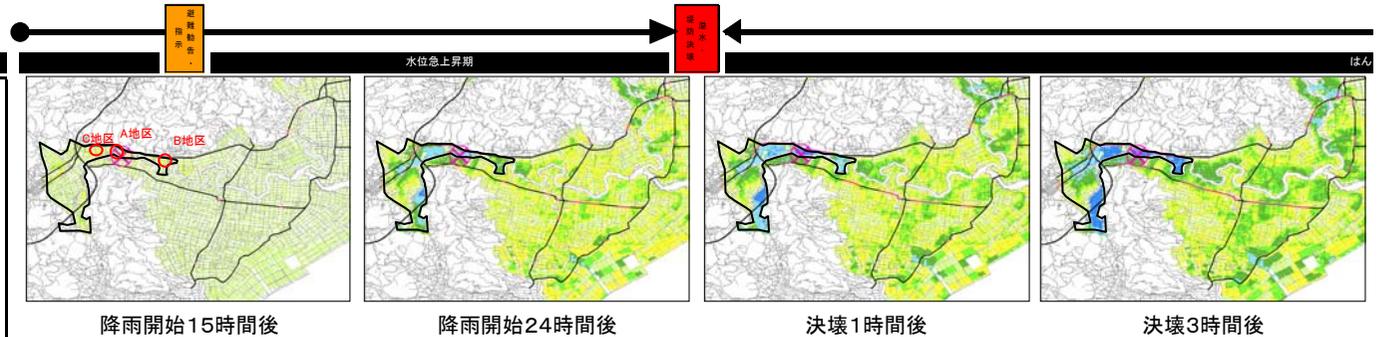
被害項目

浸水区域内人口(人)	約 5,000
浸水面積(ha)	約 1,000
床上浸水(世帯数)	約 300
床下浸水(世帯数)	約 1,100
死者数(人)	約 33 (避難率 0%)
	約 30 (避難率 10%)
	約 20 (避難率 40%)
孤立者数(人)	約 7 (避難率 80%)
	約 1,500 (避難率 0%)
	約 1,300 (避難率 10%)
約 900 (避難率 40%)	約 300 (避難率 80%)



凡例

- 駅
- 国道
- 高速度道路
- 鉄道
- 市町界
- 河川
- 代表地区
- 警察
- 役場(県庁・市役所・支所)
- 拠点病院
- 消防

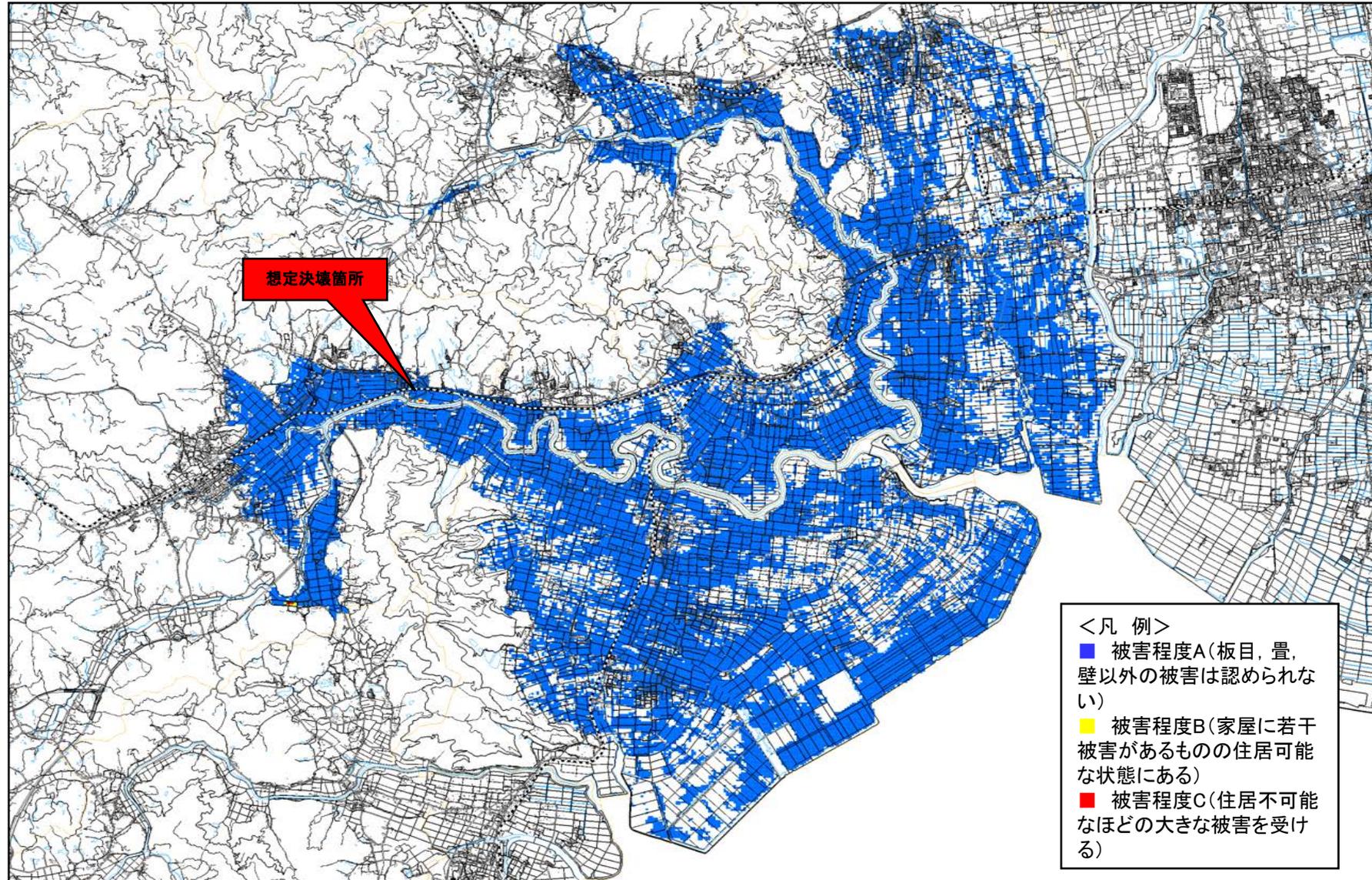


A地区	●20~30cm未満 ●1.0m以上 ●床上浸水や停電が想定される。 ●避難所が浸水で使用できなくなる可能性がある。	●2.0m~5.0m未満 ●決壊直後にははん濫水が到達 ●決壊によるはん濫水の影響で家屋及び避難所が倒壊等の被害の可能性がある。水中歩行による避難が困難となる可能性がある。	●2.0m~5.0m未満
B地区	●10~20cm未満 ●50~1.0m未満 ●床上浸水や停電が想定される。避難所が浸水で使用できなくなる可能性がある。	●1.0m~2.0m未満	●2.0m~5.0m未満
C地区	●10cm未満 ●20~30cm未満	●50cm~1.0m未満 ●床上浸水や停電が想定される。避難所が浸水で使用できなくなる可能性がある。	●1.0m~2.0m未満

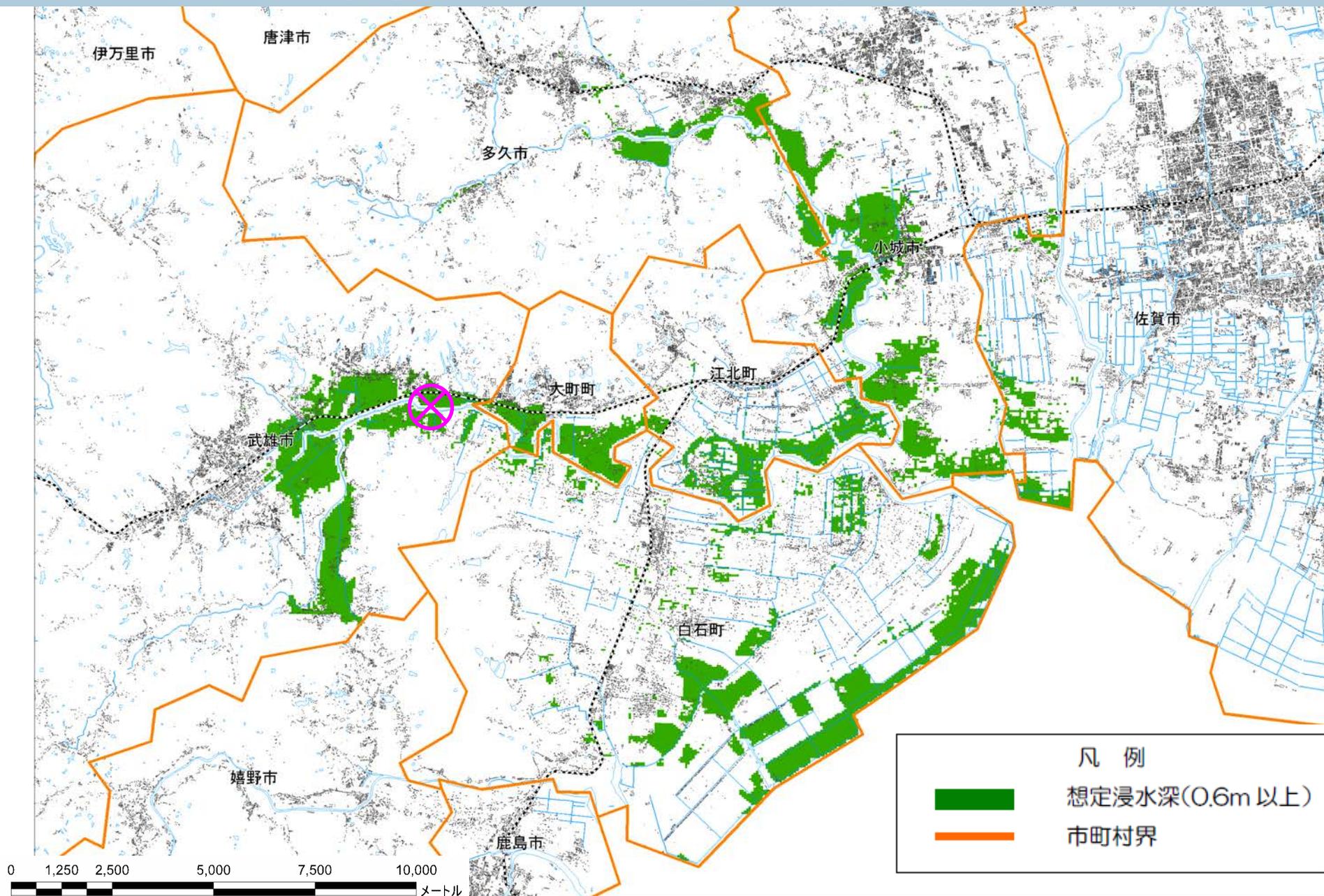
1. 供給 - 電気 - ガス - 上水道	■ 停電による関連施設への影響の波及 * 受電側(居住地など)が浸水により停電発生している可能性が高い ● 電力: 変電所が浸水対策以上に浸水 ● LPガス: LPガス容器的流出、LPガス ● 上水道: 浸水により一部の上水道が
2 衛生処理 - 水質汚染 - 防疫	
3 輸送 - 鉄道 - 道路	■ 鉄道の運行停止(降雨等の気象状況を基に予め浸水開始前に運行停止) ■ 鉄道の浸水(軌道、線路ポイント冠水) ■ 道路冠水による輸送力の低下 ■ 放置車両による通行障害 ● 決壊前に冠水が予想される区間が発生する。
4 安全・防犯 - 警察署 - 消防署	■ 浸水による通行止め道路の把握困難 ■ 道路冠水による活動支障 ■ 放置車両、渋滞による活動支障 ■ 警察署、消防署及びその周辺の浸水による
5 情報通信	■ 停電後非常用電源に切り替わるが、燃料補給できずバックアップ機能を有するテレビ・ラジオは放送継続 ● 避難所自体が浸水して使用できなくなる恐れがある。 ■ 避難所周辺の道路が浸水して孤立 ■ 道路冠水による水防活動が困難 ● 排水ポンプ場や水門等の稼働
6 避難所	■ 浸水範囲、被害の把握が困難 ■ 避難所浸水による避難場所の選定、指示が困難 ■ 広域的避難要望の増大 ■ 要援護者、孤立者の把握困難 ■ 交通、ライフライン被害の把握困難
7 防災・水防	■ 放置車両や道路冠水による患者搬送困難 ■ 災害時要援護者等の避難困難 ■ 停電後非常用電源に切り替わる ■ 周辺の浸水により患者の搬送・受け入れが困難 ■ 災害時要援護者等の所在の確認困難 ● 周辺の浸水によって車輦による患者の搬送が一部困難な状況となる
8 福祉・医療 - 介護	■ 入手情報が断片的で状況把握が困難 ■ 内水発生による家屋への孤立 ● 浸水深1m以上になり、固定電話を使用した救助要請や防災情報の入手が困難になる。また、停電によりTVからの情報
9 居住	■ 家屋 ■ 家屋

(2)リスクマップ ①一般家屋 最大流体力分布図 (①六角川上流はん濫 地点:六角川左岸23.8km)

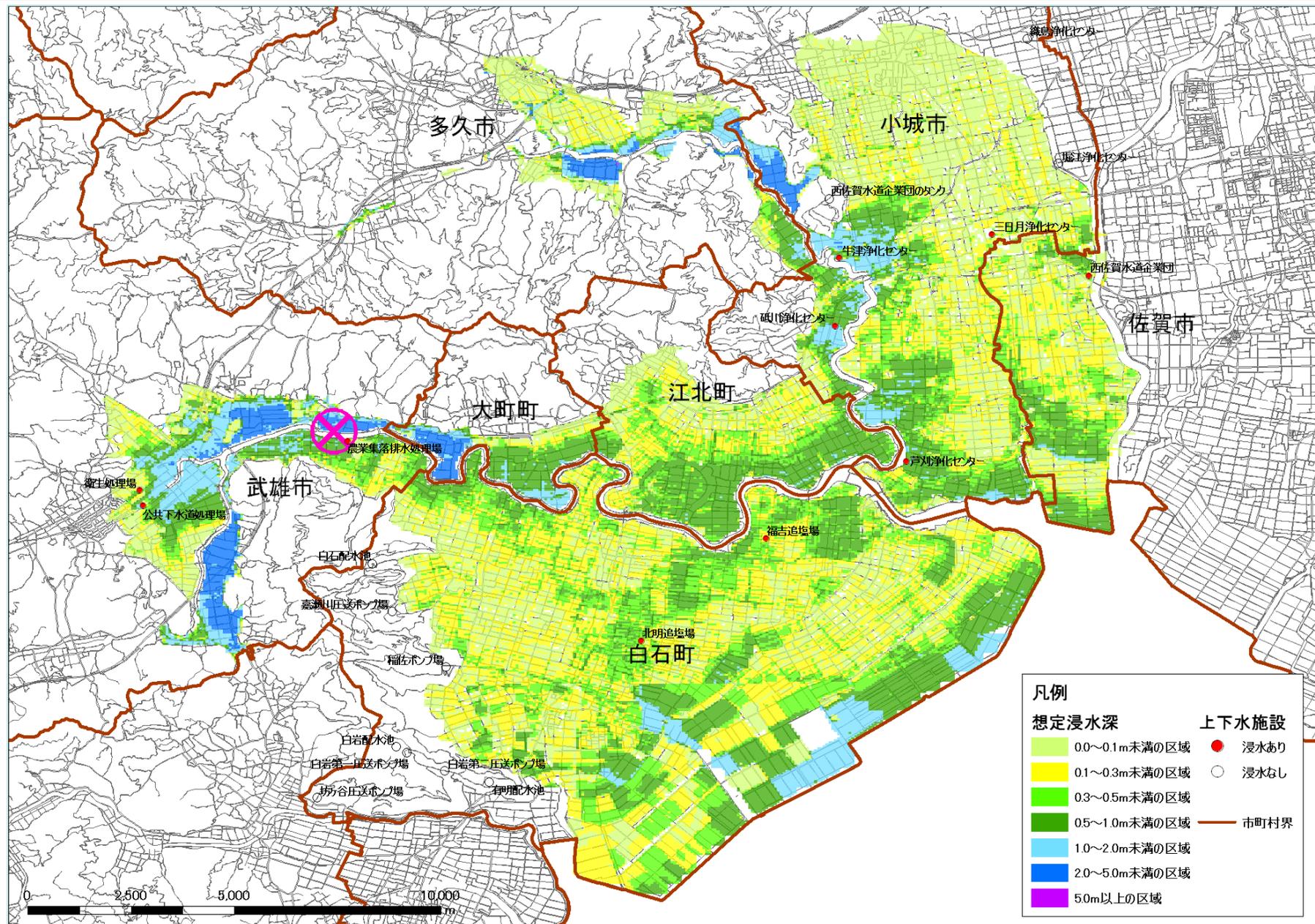
■最大流体力(m³/s²)



(2) リスクマップ ②ライフライン施設（通信） 六角川上流はん濫地点：六角川左岸23.8km



(2) リスクマップ ②ライフライン施設（上下水道施設） 六角川上流はん濫 地点：六角川左岸23.8km



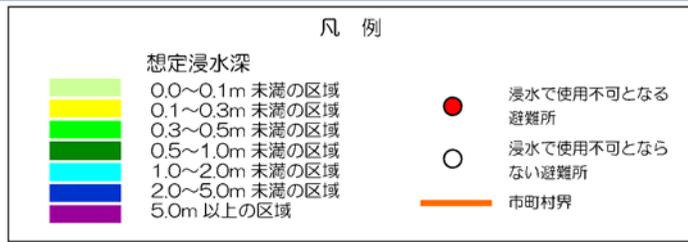
(2) リスクマップ ③水害廃棄物

算定手法	各類型の水害発生物発生量の試算結果3)					
	①六角川上流 はん濫	②六角川下流 右岸はん濫	③六角川下流 左岸はん濫	④牛津川上流 はん濫	⑤牛津川下流 右岸はん濫	⑥牛津川下流 左岸はん濫
①環境省の指針 その1 ¹⁾ 1棟当たりの発生量を固定して算定 【被災棟数】×【水害発生廃棄物発生量(2t)】÷棟	【想定】 約3,000t 【被災棟数】 約1,500棟	【想定】 約8,300t 【被災棟数】 約4,200棟	【想定】 2,600t 【被災棟数】 約1,300棟	【想定】 約1,200t 【被災棟数】 約600棟	【想定】 約3,700t 【被災棟数】 約1,900棟	【想定】 約10,200t 【被災棟数】 約5,100棟
②環境省の指針 その2 ¹⁾ 床上以上(x1) 床下(x2)別浸水棟数を使用して算定 $y = 3.79 x1 + 0.08 x2$	【想定】 約4,400t 【床上浸水以上】 約1,200戸 【床下浸水】 約300戸	【想定】 約5,600t 【床上浸水以上】 約1,400戸 【床下浸水】 約2,800戸	【想定】 約2,400t 【床上浸水以上】 約600戸 【床下浸水】 約700戸	【想定】 約1,400t 【床上浸水以上】 約400戸 【床下浸水】 約200戸	【想定】 約5,800t 【床上浸水以上】 約1,600戸 【床下浸水】 約300戸	【想定】 約11,000t 【床上浸水以上】 約2,900戸 【床下浸水】 約2,200戸
③その他の研究例2) 被災種別の1世帯当たりのゴミの量を以下のように推定して算定 全壊：12.9 大規模半壊：9.8 半壊：6.5 一部損壊：2.5 床上浸水：4.6、 床下浸水：0.62 (単位はすべて(t/世帯))	【想定】 約5,600t 【床上浸水以上】 約1,200戸 【床下浸水】 約300戸	【想定】 約8,200t 【床上浸水以上】 約1,400戸 【床下浸水】 約2,800戸	【想定】 約3,300t 【床上浸水以上】 約600戸 【床下浸水】 約700戸	【想定】 約1,800t 【床上浸水以上】 約400戸 【床下浸水】 約200戸	【想定】 約7,200t 【床上浸水以上】 約1,600戸 【床下浸水】 約300戸	【想定】 約14,500t 【床上浸水以上】 約2,900戸 【床下浸水】 約2,200戸
備 考	<p><一般廃棄物排出量実績(平成19年度)> (出典：環境省 一般廃棄物処理実態調査結果) 小城市 約14,000 t, 武雄市 約14,000 t, 多久市 約6,500 t, 白石町約6,500 t, 江北町 約3,000 t, 大町町 約2,500 t (※ 処理量も概ね同じ) (※)一般廃棄物 ①家庭系一般廃棄物(家庭から排出される廃棄物) ②事業系一般廃棄物(事業者が排出する産業廃棄物以外の廃棄物)</p>					

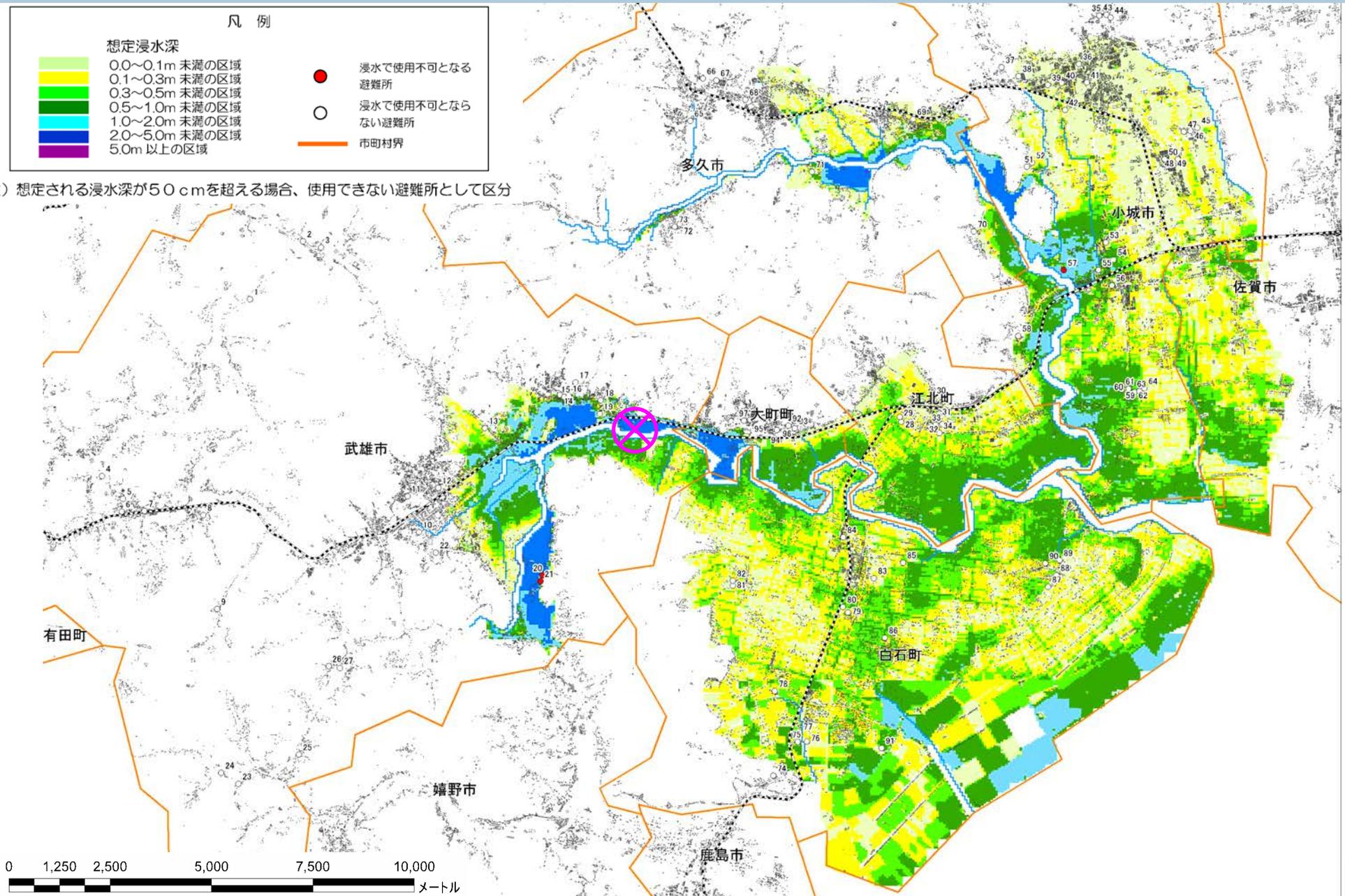
- 1) 「水害廃棄物対策指針、H17.6(環境省)」に示される水害廃棄物量計算式。過去に水害で被害を受けたことのある171市区町村を対象として実施された平成13年度アンケート調査結果を用いて求めたもの。
- 2) 学術論文「水害時における行政の初動対応からみた災害廃棄物発生量の推定手法に関する研究、第33回環境システム研究論文主；平山修久・河田恵明、H17年」による。2004年に水害が発生した48市町村に対する災害廃棄物に関するアンケート調査結果に基づいて、住家被害を考慮した災害廃棄物の発生原単位を算出したもの。
- 3) 試算結果は、被害想定で算定した床上および床下世帯数を用いて算定したものであり、被災棟数には床上および床下世帯数の合計を、浸水棟数には浸水世帯数を代用して算定した。

(2) リスクマップ ④避難所

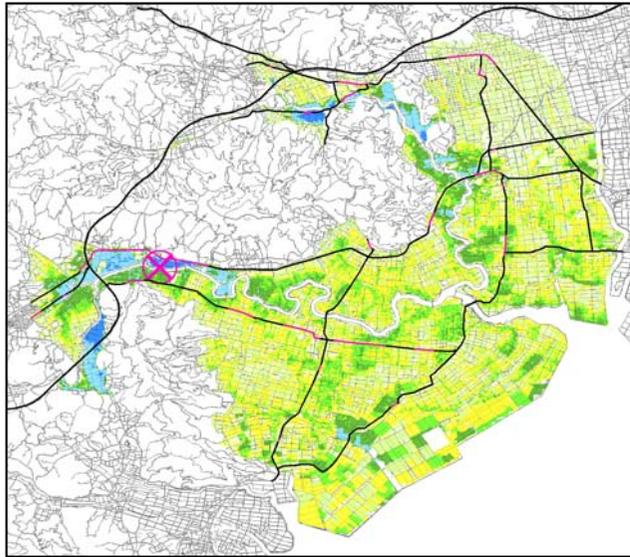
六角川上流はん濫 地点：六角川左岸23.8km



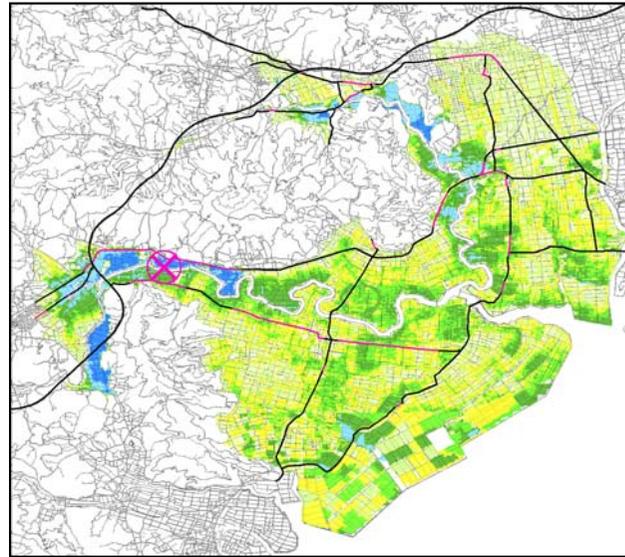
注) 想定される浸水深が50cmを超える場合、使用できない避難所として区分



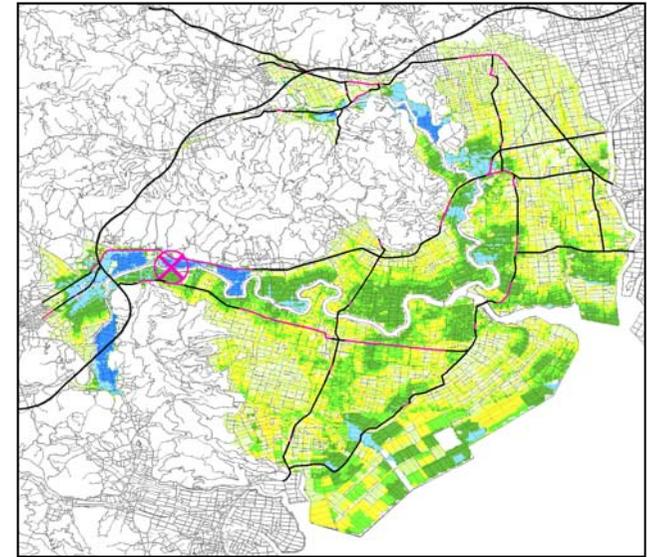
(2) リスクマップ ⑤緊急輸送道路の被害想定(六角川上流はん濫:左岸23.8km)
 <破堤後から概ね浸水解消までの緊急輸送道路の冠水が予想される区間>



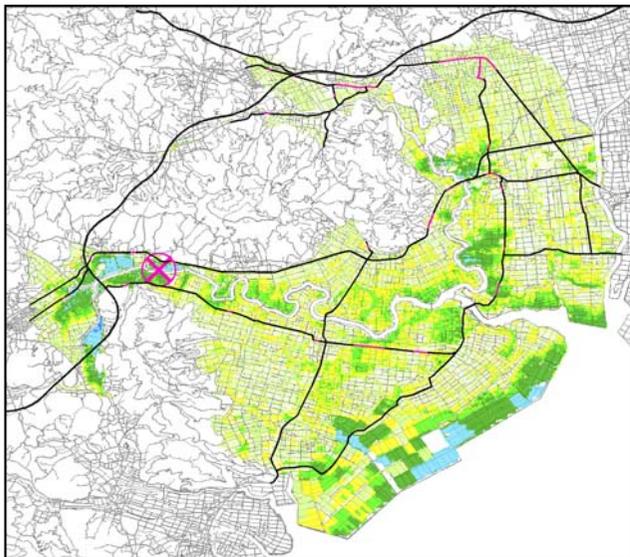
1時間後



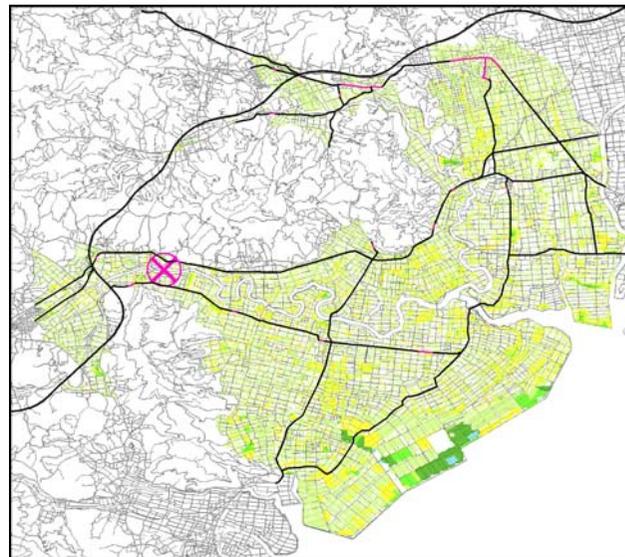
3時間後



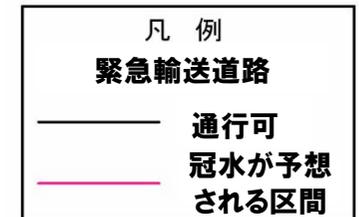
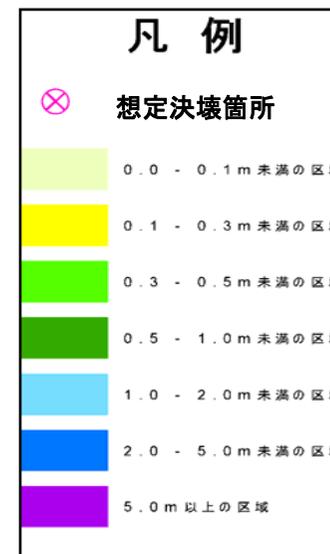
6時間後



24時間後



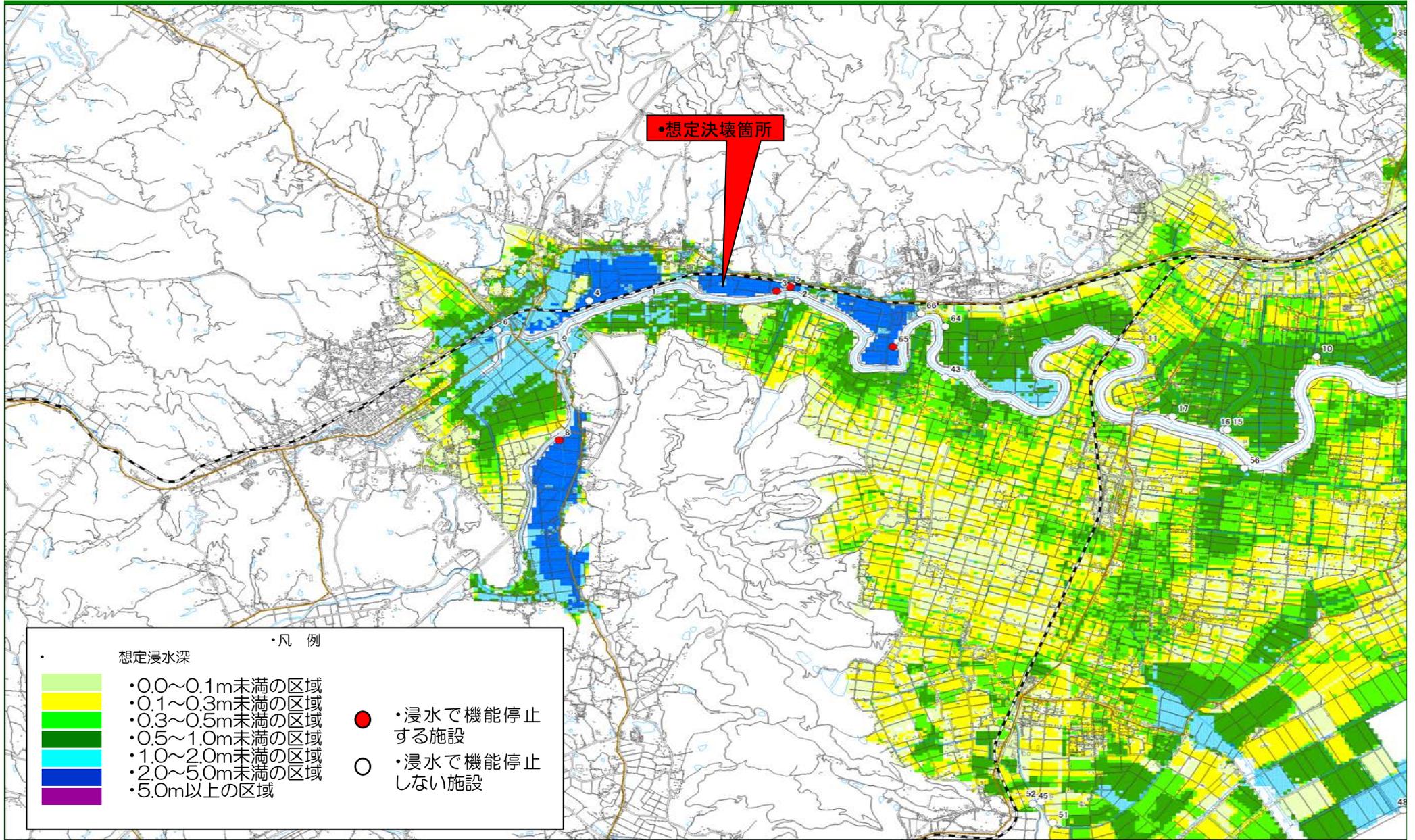
72時間後



※通行止めの恐れのある区間
 を各機関の判断基準により設定

(2) リスクマップ ⑨排水ポンプ場

(六角川上流はん濫 地点:六角川左岸23.8km)



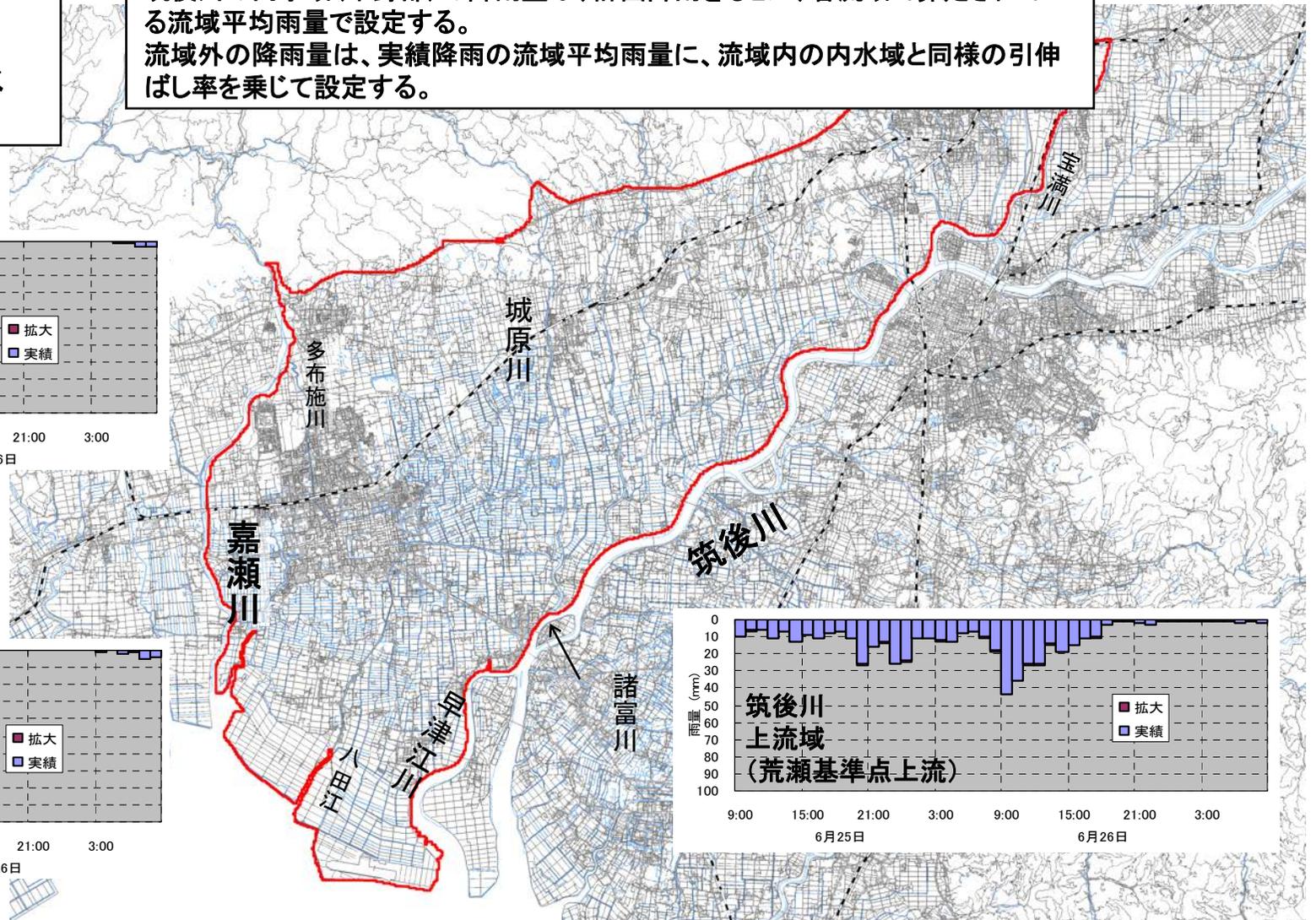
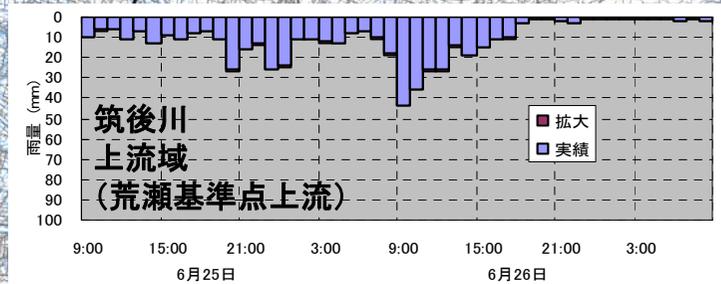
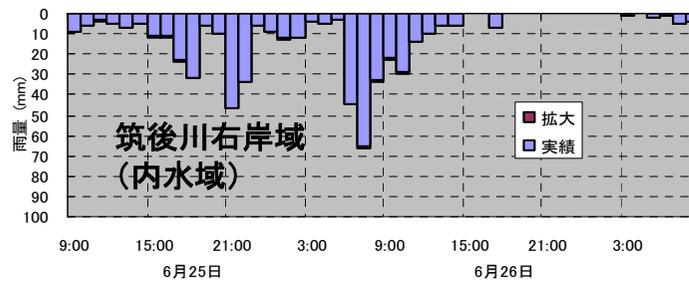
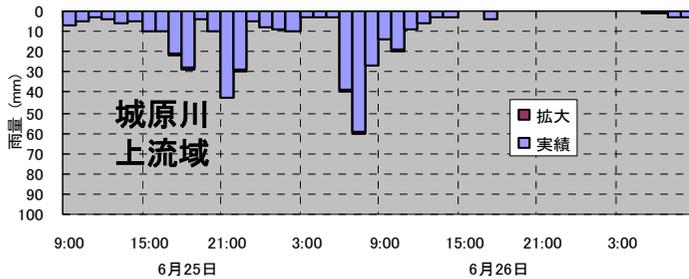
1.5.1 筑後川右岸の洪水の想定

降雨条件

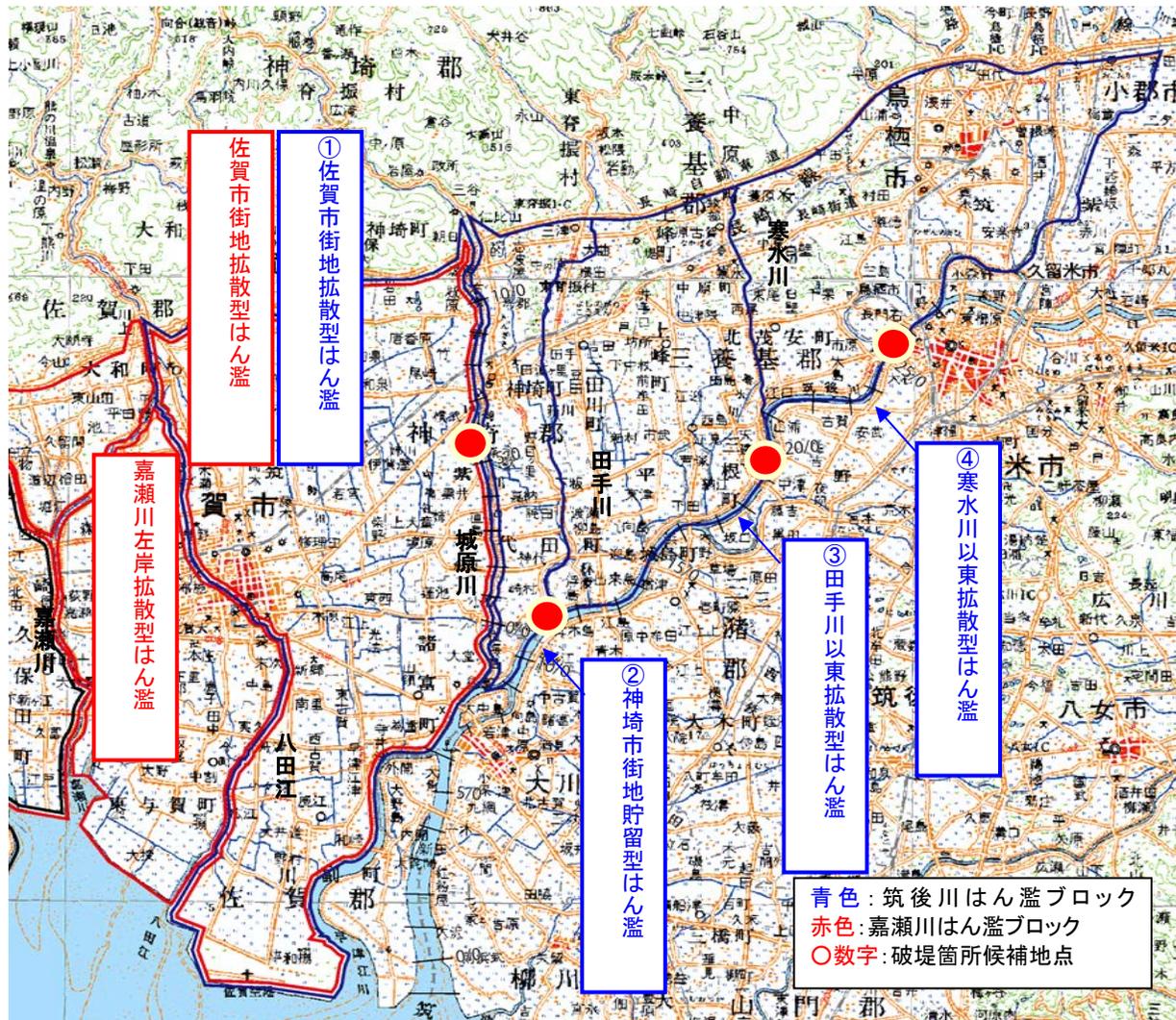
- ・確率規模: 1/150
- ・計画雨量: 521mm/48時間
- ・降雨波形: 昭和28年6月洪水
- ・基準地点: 荒瀬

内水域降雨量の設定について

筑後川の内水域(平野部)の降雨量は、計画降雨をもとに、各流域で算定されている流域平均雨量で設定する。
流域外の降雨量は、実績降雨の流域平均雨量に、流域内の内水域と同様の引伸ばし率を乗じて設定する。



1.5.2 筑後川右岸の浸水想定の方



筑後川流域を類似のはん濫形態を持つ以下の4つに分類し、それぞれについて被害を想定した。

浸水想定の種類区分

- ① 佐賀市街地拡散型はん濫
- ② 神崎市街地貯留型はん濫
- ③ 田手川以東拡散型はん濫
- ④ 寒水川以東拡散型はん濫

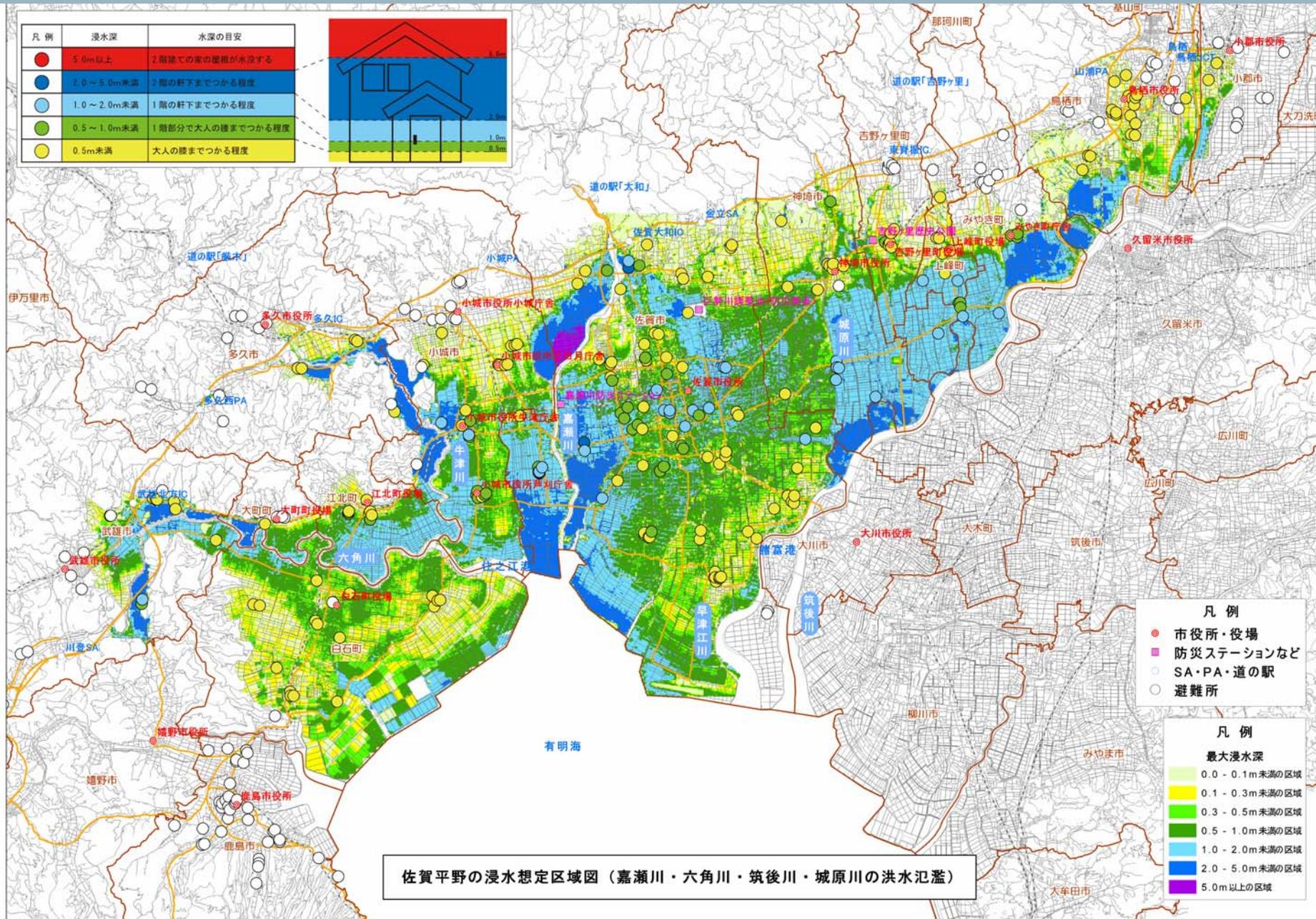
想定決壊箇所について

- ・ここで挙げた想定堤防決壊箇所は、特に他の場所と比較して決壊の危険性が高いことを示すものではない。
- ・想定決壊箇所は、はん濫開始流量が小さい箇所、決壊はん濫開始水位と決壊敷高の比高が大きい箇所、重要水防箇所などから候補地点を複数箇所設定した。候補地点の中から、各類型区分の区間毎にはん濫流量が最大となる箇所を想定堤防決壊箇所として選定した。

凡例： ● 想定決壊箇所

筑後川はん濫ブロック

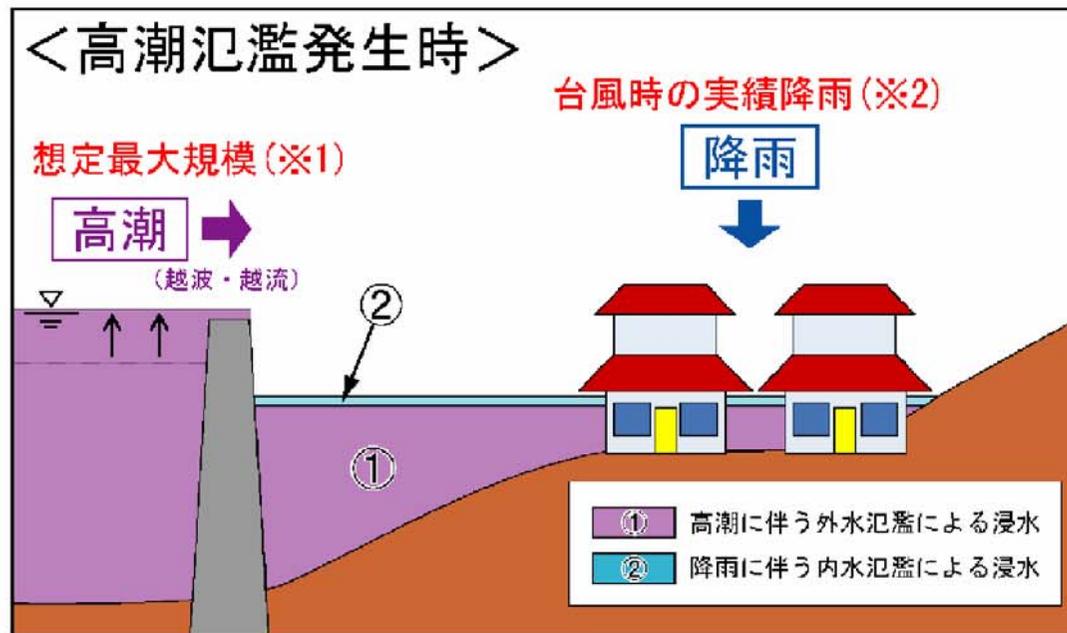
佐賀平野の洪水はん濫による浸水想定区域図(六角川、嘉瀬川、筑後川、城原川)



被害想定編(高潮編)

1.6.1 高潮の想定

- 高潮に伴う外水氾濫・・・想定最大規模の高潮に伴う越波・越流による
- 降雨に伴う内水氾濫・・・佐賀平野へ過去に接近した台風時の実績降雨による



堤防決壊は考慮しない

- 破堤条件の設定について科学的知見が十分でない※。
- 越流や越波に強い構造となっている： 海岸堤防および高潮区間の河川堤防は、全面コンクリート等により被覆され、越流や越波に強い構造となっている
- 破堤がない場合での浸水状況の把握： まずは、破堤しない条件でどのような浸水状況が発生するかを把握。

上記の理由から、当面破堤は考慮しない。

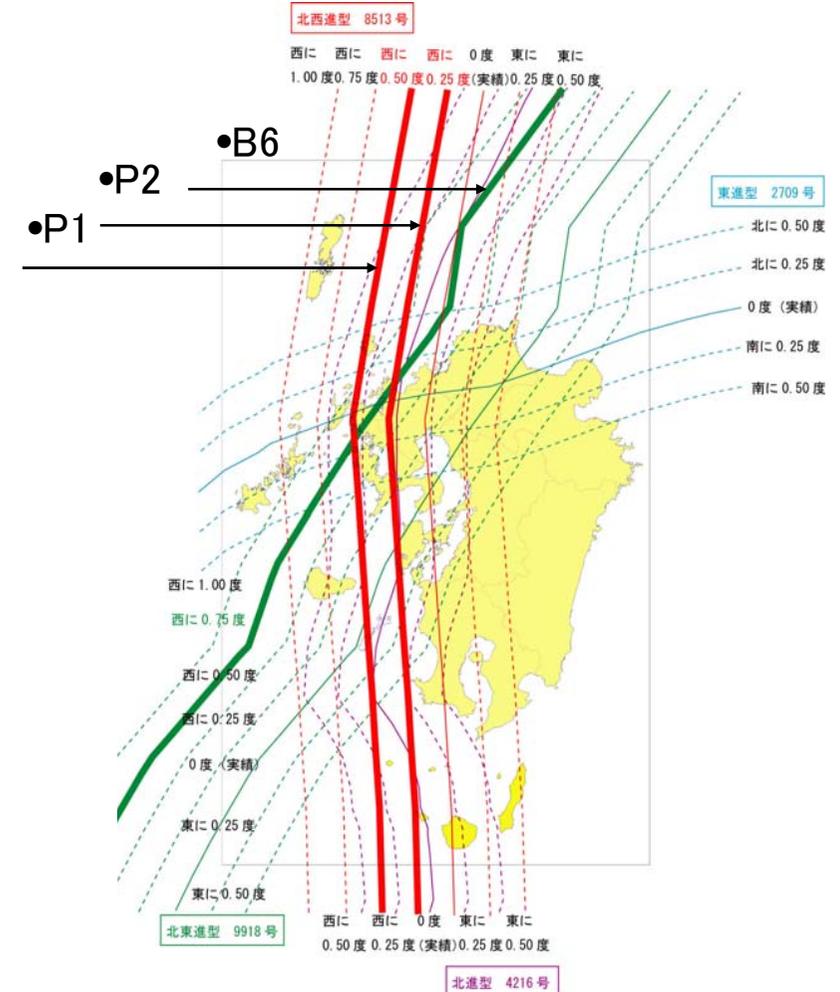
※：「津波・高潮ハザードマップマニュアル」では、「現状の建造物の状況を踏まえ、越流と越波による施設の破壊を考慮する」として記載されている一方、破堤における施設条件設定の考え方、破堤メカニズム、破堤幅の条件設定について、課題があることも記載されている。高潮浸水想定区域図作成の実際は、想定最大規模超過外力での建造物の破壊に関連し、過大な浸水予測にならないように設定すべきとの意見があり、建造物の破壊条件は考慮されていない。このため、高潮による被害想定では、堤防決壊を考慮しない。

※1: 台風規模は、わが国の観測最大規模の台風(伊勢湾台風:5915台風)で設定。台風の通過コースは、既往の主要な実績コースを平行移動させ、最大規模の高潮が発生するコースで設定。

※2: 降雨規模は、既往の台風時実績降雨を踏まえ、内水氾濫が発生し得る降雨で設定。

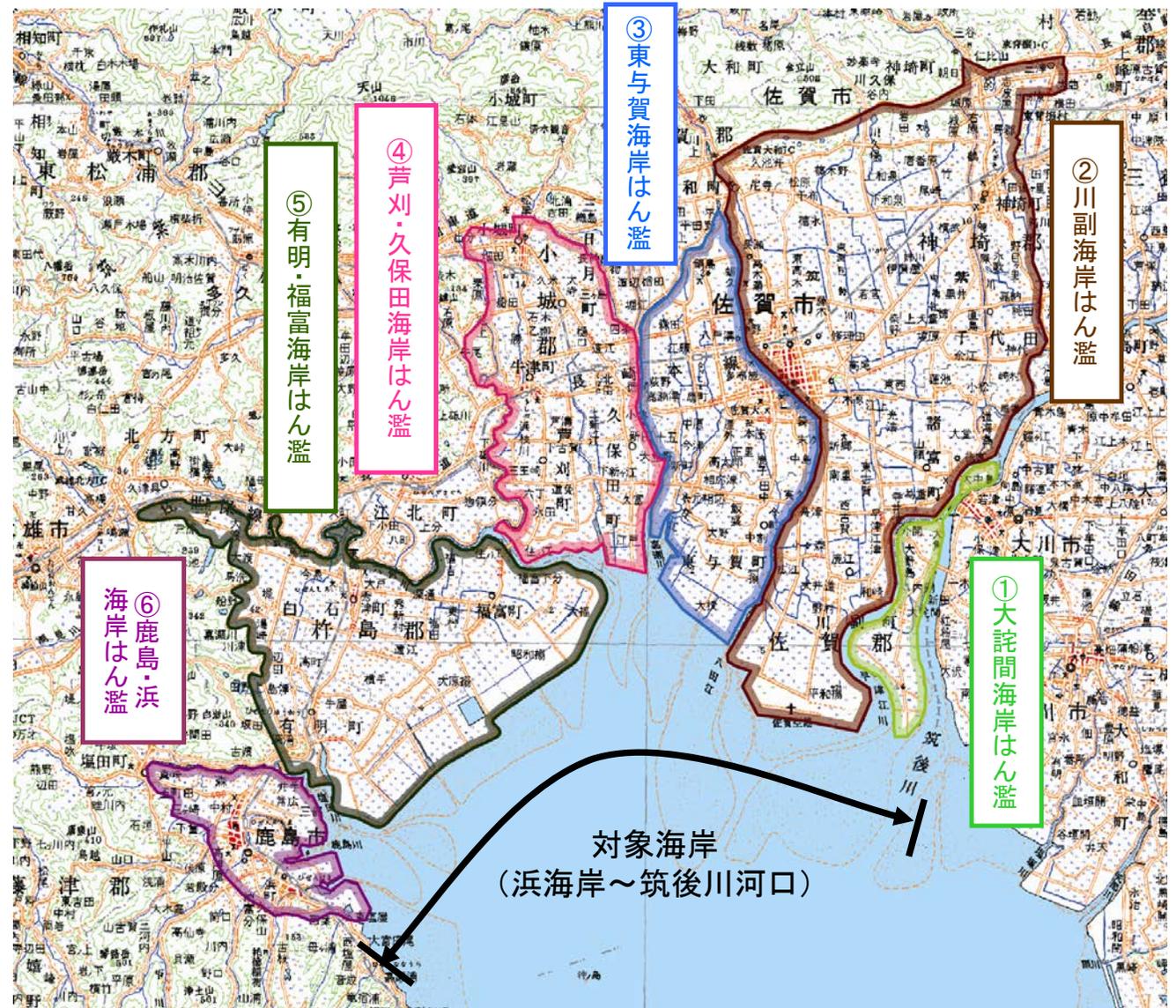
1.6.1 高潮の想定

	項目	条件
外力条件	高潮外力	想定最大規模超過外力
	概要	日本に接近・上陸した台風の中で、最も勢力の強い台風（5915台風+最悪コース）
	台風ルート	既往の主要な実績台風のコースを平行移動させ、各海岸に最大規模の高潮を発生させる代表コースを3ケース抽出
	想定潮位	朔望平均満潮位：HWL 2.66m
	想定偏差	最大 3.87 m
	想定波高	最大 3.48 m
降雨条件	降雨規模	既往の台風時実績降雨のうち、最大の内水氾濫が発生し得る降雨
	降雨波形	199708台風時降雨（H9. 6. 27～28）

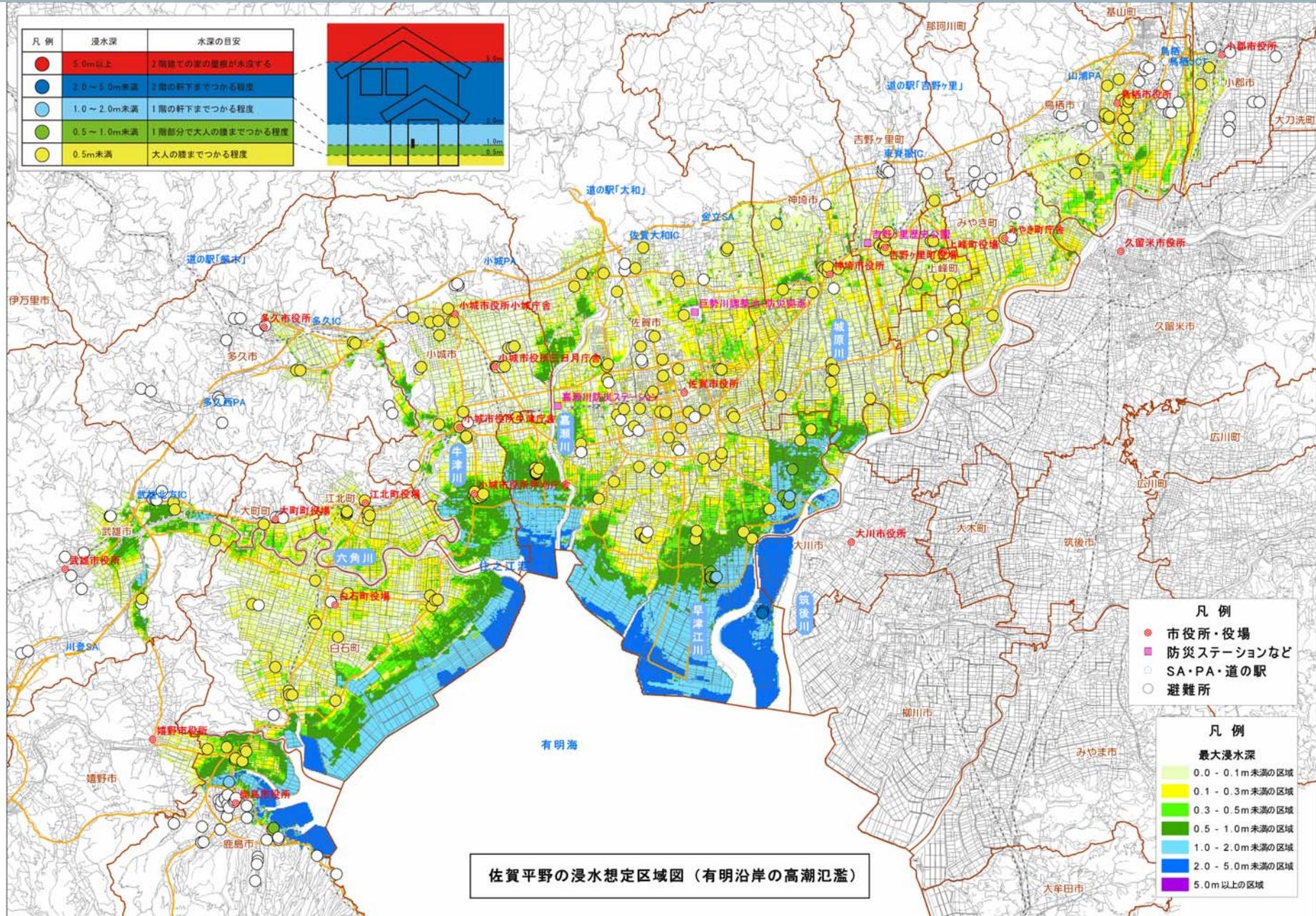


1.6.2 高潮の浸水想定の方

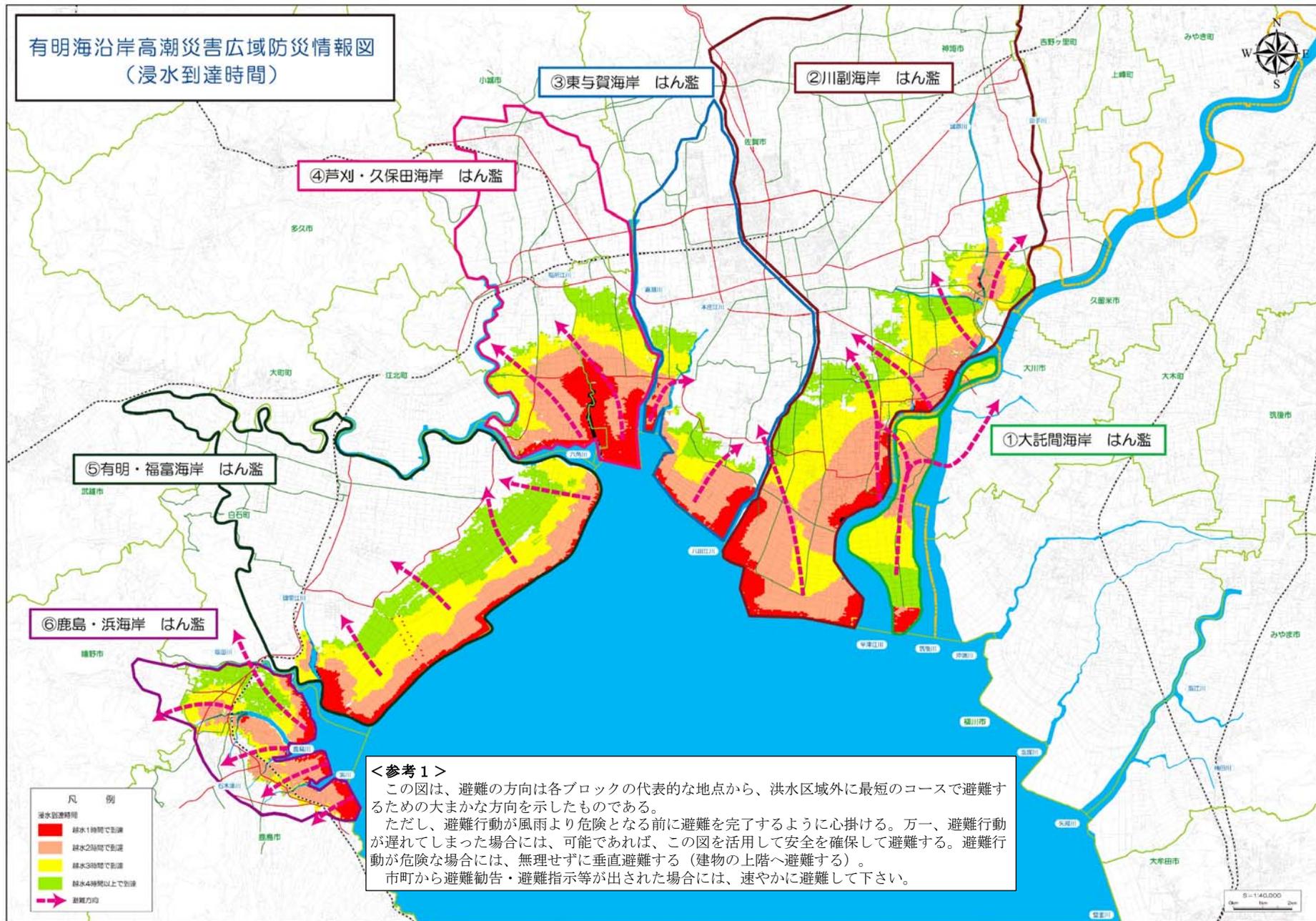
浸水想定の種類区分	はん濫 ブロックの範囲
①大詫間海岸はん濫	筑後川と早津江川と海岸堤防に囲まれた区域
②川副海岸はん濫	早津江川と八田江に囲まれた区域
③東与賀海岸はん濫	八田江と嘉瀬川と海岸堤防に囲まれた区域
④芦刈・久保田海岸はん濫	嘉瀬川と牛津川と海岸堤防に囲まれた区域
⑤有明・福富海岸はん濫	六角川右岸堤防と山地と海岸堤防に囲まれた区域
⑥鹿島・浜海岸はん濫	塩田川右岸と海岸堤防と山地に囲まれた区域



佐賀平野の高潮はん濫による浸水想定区域図



<参考> 高潮被害時の避難方向の目安



「佐賀平野大規模浸水危機管理計画」の改訂（案）

7. 第2章【対策編】各施策の改訂概要（ポイント）

- 現行の27施策について、防災訓練やDIG訓練で課題の抽出結果、H22.3.11東北地方太平洋沖地震による教訓等を踏まえ、**内容を充実させる。**
 - ・項目名を変更したもの；14施策
 - ・現行施策の内容を見直す（内容の追加・修正・更新）もの；27施策

- 各機関の連携強化や危機管理計画の改善が継続的に実施できるよう進捗管理表を追加

- 今後の方針を追加
 - 1) 継続的に年1回の検討会を実施し、各施策の進捗状況の報告及び次年度以降の方針等を確認。
実務者連絡会幹事会で施策の進捗状況を確認。
 - 2) 危機管理計画を検証するために、毎年自治体持ち回り（流域交互）で危機管理対策訓練（防災訓練、机上訓練）を実施していく。
 - 3) 危機管理対策訓練等の結果により、さらに計画の施策の内容の充実を図っていく。
 - 4) 各機関においては、各施策の進捗等によって明らかになった有効な情報共有事項や連携を図るべきと考えられる事項等を地域防災計画、水防計画、防災業務計画書等に反映させることとする。※平成23年度の予定及び平成24年度以降の予定を追加

- 今後の検討課題において、H23.3.11に発生した東北地方太平洋沖地震において明らかとなった留意すべき点を抽出し、今後すべき課題を整理

施策3-8 危機管理対策演習の実施

施策の取り組み区分		施策の概要						施策を実行することによる利点		備考
1	全体での取り組み	被害想定を用いた大規模浸水時の危機管理対策訓練を実施						合同訓練により連携強化が図られる。		
3-8 危機管理対策訓練の実施								施策の内容(目標) 時系列、定量的な被害想定に基づく訓練を実施することにより、避難・救助、緊急復旧、事前大意策等の危機管理体制の向上を図る。		
関係機関		○国土交通省 筑後川河川事務所 久留米庁舎 ○佐賀県 消防防災課 ○佐賀市 ○みやき町 ○佐賀東部水道企業団 ○㈱ケーブルワン ○国土交通省 佐賀国道事務所 ○佐賀県 河川砂防課 ○小城市 ○吉野ヶ里町 ○西日本高速㈱ ○㈱多久ケーブルメディア ○国土交通省 筑後川河川事務所 佐賀庁舎 ○佐賀県 道路課 ○多久市 ○上峰町 ○九州電力㈱ ○防災エキスパート会 ○国土交通省 国営吉野ヶ里歴史公園事務所 ○佐賀県 農山漁村課 ○武雄市 ○江北町 ○㈱NTT西日本 ○NPO法人 技術交流フォーラム ○国土交通省 嘉瀬川ダム工事事務所 ○佐賀県 危機管理・広報課 ○神埼市 ○大町町 ○佐賀ガス㈱ ○佐賀県 防災企画グループ ○佐賀県警察本部 ○鹿島市 ○白石町 ○(社)佐賀県LPガス協会								
実施概要		予定年度 【●実施完了、○実施予定】 ● H23以前 ○ H23 ○ H24 ○ H25 ○ H26 ○ H27						各機関の実施内容と状況		施策概要図
具体策の取り組み内容		作業主体		実施年度		実施内容		実施内容		
佐賀県総合防災訓練 多久市防災避難訓練 机上演習(嘉瀬川と六角川を対象) 武雄市防災訓練 1) 各機関の災害対応における計画の整理 2) 武雄市で想定される被害シナリオの検討→事前に机上演習により検討 3) 被害シナリオに対する危機管理行動計画の検討(関係する機関の行動計画含む) 施策3-6と関連 4) 訓練による検証項目の設定(武雄市危機管理行動計画の検証) 一避難準備情報・避難勧告の判断→情報伝達(広報車等)→避難誘導(渋滞等を想定)以上避難訓練 一ヘリによる情報収集、ヘリ画像の防災情報掲示板での共有、全体像把握 一広域被害、孤立者あり、資機材不足→支援要請→支援内容の伝達 以上情報伝達訓練		佐賀県 多久市 全機関 武雄市		● ● ● ○		災害対策基本法、防災基本計画、県・市町地域防災計画などに基づき実施 H22.6.6 多久市防災避難訓練にて計画を検証 H22.11.11 全機関による机上演習(DIG形式)で課題・問題点の抽出 H23.5.22 県総合防災訓練にて神埼市は防災避難訓練を実施 H23.9.4 武雄市防災避難訓練を実施予定 (今後の予定) 佐賀市 小城市 白石町 ※以降は今後調整していく ○六角川流域と嘉瀬川・筑後川流域で交互に実施することを基本とする。 ○市町において持ち回りで当番を決めて実施していく。 ○訓練内容については、テーマや場面等を絞って実施する。 ※嘉瀬川と六角川においては関係機関とDIG訓練を実施し、課題の抽出 を行い、27施策へ整理された。 今後は既存計画が機能するか等について検証する必要があり、ロール プレーイング形式の机上訓練が必要と思われる。 例: ・テーマを絞った机上演習(DIG形式、ロールプレイング形式) ・実働訓練(マイ防災マップに則った住民避難訓練等)など ○地震防災訓練は含まない		佐賀平野大規模浸水危機管理検討会 Action: 問題点の改善 Plan: 危機管理計画・各防犯計画等 Check: 各計画の評価 Do: 計画に基づいた危機管理訓練等 危機管理能力の向上 検討会 実施等委員会 協議 準備		
1 情報共有に関する既存計画を検証する訓練										
1) 各機関の情報共有に関する計画の整理(情報の伝達系統、提供先、提供時期等) 2) 各機関の災害対応における判断事項と必要とする情報の整理(ニーズの把握) 3) 各機関が提供できる情報の種類と提供時期、手段の整理 4) 既存計画を検証する訓練(DIG)による課題の抽出 5) 検証結果を踏まえた情報共有の仕組みづくり 施策3-5マスコミとの勉強会と関連 6) 情報共有に関するルール化の検討、協定										
2 既存情報共有システムを活用した訓練										継続実施
1) 既存の情報共有システムの確認(施策1-1電話会議システム訓練を含む) 2) 既存システムの配信ルート確認 3) 訓練による既存システムの活用の課題を抽出 4) 既存システムの活用方策の検討(以下は関連する施策) 一防災情報総合掲示板、CCTV画像による浸水状況把握、ヘリテレ画像の生中継、 高速道路における道路情報等の提供、地上デジタル放送、地上デジタル放送と関連										
3 避難・救助に関する危機管理計画を検証する訓練										継続実施
1) 各機関の防災計画等の確認 2) 危機管理計画の検証(ロールプレイング方式の演習) 3) 検証結果を踏まえた危機管理計画の改善案の検討 4) 実災害での検証										
4 航空管制の訓練										継続実施
1) 航空管制の現状のルール確認 2) 各機関が有するヘリの装備(ヘリテレの有無、燃料、飛行時間、巡航速度等) 3) 初動飛行ルート、調査エリアの確認(同じエリアを調査していないか実態調査) 4) 航空管制の訓練実施 5) 航空管制の訓練による既存計画の課題の整理 6) 航空管制に関するルール(案)の作成 7) 協定書(案)の作成 8) 協定締結										

※この施策個別表は最終版ではない。当面の目標設定としては5ヶ年を設定しているが、「具体策の取り組み内容」については訓練等で検証しながら随時見直しをしていくものとし、それに伴い「予定年度」も見直しをしていくものとする。

2. 今後の予定

今後の予定(1)

年度		H23年度																	
項目	内容	4月			5月			6月			7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬									
改訂版作業 5/18幹事会	・「東北関東大震災」の課題整理 ・施策内容の充実	施策検討G・作業幹事 を中心にして			●														
先生事前レク	・改訂版の内容確認等					●													
6/9 第13回検討会	・改訂後の方針 ・改訂版の説明							●											
第2回改訂版公表									公表										
先生事前レク	防災訓練の内容説明											●							
武雄市防災訓練	9/4予定								準備期間				●						
幹事会	訓練の検証												●						
先生レク	訓練の検証報告													●					
施策の進捗	施策検討G・作業幹事を 中心に関係機関と調整し ながら進捗を図る								—————										

今後の予定(2)

年度		H24年度以降																	
項目	内容	4月			5月			6月			7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬									
幹事会	・年度の方針確認 ・施策の進捗確認			●															
施策の進捗	施策検討グループ毎に随時推進	施策検討G・作業幹事																	
危機管理訓練	・県総合防災訓練						●												
	・机上演習・実働訓練等 (国、自治体連携)												●						
幹事会	訓練の検証作業												●						
検討会	・施策の進捗確認 ・次年度の方針説明等																●		